

欽定四庫全書

三
子
行



類字名所和歌集第三

廿一代集後書

与行



淀

澤河 淀野

山城

東久世郡

西し 誰郡

古今卷二

海も川淀の沢水ぬれを帯よりしこふまされわのま

真之

同四

淀川のよとむと人こみさらりゆと候てぬりふむあつと

淡人 不長

同五

山城川淀の若あもつとこふふふぬ人ねむ我うまのなき

同

後撰卷六

あふ事と流小あまてふ川の杜つしと恙とこけり此

同

同

川の杜りうは流乃なりあまうみ色あ人を淀川波

同

拾遺卷

み月ぬも遊、成り淀川此島蒲花若も思くさせよたり

同

同

川の方よ晴てゆらん歌よとの後里のまこ和ゆりさん

忠見

同

さる事あこまれば淀野あなろ宿と人うつとつら

同

拾遺卷

少つ屋の淀の波とりのさるれいとあんあもなく水志まら

平兼盛

同卷三

後拾遺号

同卷二

同謀諸

金葉文

同卷三

千載集

同卷四

同卷下

新古今夏

新古今冬

川て下流乃戸こまれ海をけり祿日あぬ三とすり非

漢人不知

祿金代上小撰ささくめよ富満葉あて引も同く野と

大中臣

くし野人とし海を射ふ人そまう人ささくも野と

原重之

三日乃よりけりけりけりけりけりけりけりけり

五原

のやめまると野よさ此物なれ根まう人の引もやさり

春宮大

島浦やもりけりぬあもを引けりけりけりけり

相模

まぬまうあやめれまもを引けりけりけりけり

江持挺

山城の三山野の甲子妹と並て昔否よとに船よもふらん

三三位

ふのりとし飯初人やます飯よこのまこのけりけり

和泉

さあも射よふの渾水流るれとをまて月れ歌をま

前中納言

指りけりけりこのさ紫のあてよこの川世の月をみるれ

左近中

約よしはせよもよそ立神しよと乃川一誓つくよ箇て片

匡房

同卷三

新勅撰春上

後撰集上

新後撰集

同卷中

玉葉冬

同卷二

後千載集

瓜推夏

瓜推上

山城の後のあも川よまそと袖のれやとをりことあ南

重之

あまに挿すよこの川長もいけりて春うれれ

好忠

さあも射よこのけりけりけりけりけり

同

水まらよこの河もあもさすり末もによぬあ月毎の

同

はかまぬ院此伴のけりけりけりけり

前内大

洲口も氷の上れうと煙まも鳴やぬよこの川さし

後京極

あも挿もよこのあも水よまらまてくも院の川舟

五原

あも挿もよこのあも水よまらまてくも院の川舟

冬隆

あも挿もよこのあも水よまらまてくも院の川舟

土

あも挿もよこのあも水よまらまてくも院の川舟

隆教

あも挿もよこのあも水よまらまてくも院の川舟

隆教

同中

此不元勢此まげりつゆを引人の力さおもしぬ院此川舟 前中納言

同又教

皆人とわくさんともふとも總のまきもりぬや院乃川船 止三位 隆教

新千載夏

又新後拾遺夏 信朝臣

同賀

長二のたぬよひあハりやめ東回院野も分連さりりり 枕北坐 太后宮

新拾遺秋下

ふせすりものわくまのほまきり小川内をま杖此月りり 為氏

新後拾遺冬

あやのまをふお邊小浦まらや院野ハせ院海にもまら 前坐白 大内

同藤夏

水まき院のワのあも末汁ももまら 源九正

新藤古今香上

打汲をま方人もまら 成思寺 笑白則

同夏

み月ぬ小院乃川ま 左大臣 左近史 将定親

同冬二

湖夕よ院ハ川色あま 法下 村基

石田 坐 宮神 山城

名よたてる若國ハ里杖 兼威

王業神祇

若國杖とよりの

新藤古今同

望と杖の交のと成お 從三位 左大臣

美年としや田之乃君 止三位 兼燕

若野 山川 申 備 峯 宮 藤 山井 島 根 尾 上 花 園 大和

春處乃て院やりの 後入 不知

同

見長野此山つ 友則

同下

若野川春此山吹ぬ 貫之

同冬

ゆあられを衣 後入 不知

同

あつし若野此山 同

同

吹芳野乃山乃白雪 是則

古今冬

思ふ雪の山は白き雪をかて入り一人は雪をつれもきぬ 忠孝

同

物馴むぬの月と見るまてに雪がれ雪ふふまるー雪 是則

同賀

又拾遺冬夏 友則

同物名

白雪のかり雪町を思ふ雪は山下の雪ふむうらりきる

同

雪のりーの雪ふうひひの池と雪れきぬとみつん 貴之

同

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同二

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同三

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同四

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同五

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

同

雪川岩波た町くゆあ乃とわくそ人を雪ひ初てし 貴之

ふりくみゆとひ米のち物さへおの山より傍ちりせし
贈太政大臣

同

我者とれ芳野よ志しつゝそ回即ちとるしりきせ也

伊勢

同

ぬりぬるとりらうして芳野山さき秋まと思ふとゆり

淡人不知

同

お野山越ん事うのりうのころん秋きのぬしとつ南

同

同

つ川のさお海接うみおの山乃うひりりくつれおれ者

源景朝臣

同

春乃のとりあけうやと芳野の山も遠てけさもみゆらん

忠岑

同

おが山をりーるつ川さきうげさも遠のち替れん

原重之

同

我者乃揚ふりひてみりーの山の者とも花とーそみ達

淡人不知

同

お野山よりを遠れ凡ふりを人よりちりぬむや咲らん

中野

同

お野山さきさぬ雪とみしけりも峯けくも咲陽るうけり

淡人不知

同

冬を氷らぬ水しまれもより野の跡も遠れ世りゆ

同

同

おまて珠とみり初雪さう野れ山にありやとるん

源景朝臣

同

我者やのちおにきてそおの芳乃く山とさひやうけ

能宣

同

お後をしおのそ白き芳野山つくよつりれおゆりも遠

能盛

同

お野山とつりる橋うん春向り橋原茂みて目おぬぬれ

元輔

同

おも乃かやちりんより野山よりさきよひりり人

同

同

み達とありぬお野乃川の遠てそ縁方時ひくのぬみん

人丸

同

おお乃くゆまに踏ゆる山人もゆる道とつるもや鳴也

源景朝臣

同

お今もびくてやもゆりもお野松を子日とるそふよりす

元輔

同

春のくれ道乃ちうそと芳野乃山よたなひく遠りりる

能宣

同

おお野を春に氣ふしすめせびをりくまゆる雪乃下ま

業式部

同

お野山八重五香のちりくもにりさゆとみゆり花揺りれ

石原清家

同

一野山今の陽やあまやうしんすこれ望ういふふまう後
大臣

同

極の咲かす町をうし山尺ちもぬけらぬみ梅の白くも
後理大
夫弘李

同

極をまうらまてうまつうてる野の山とをふいけうれ
源定信

同

これ人もうし野山尺まうむはうとあうぬもや野尺埋ふ
平兼盛

同

ちつこ春の尺うりたりとあのみりさうり原を霞こぬはつこ
大蔵
匡房

同

白もとこゆらよ志し見を野尺芳野の山の花あうらむと
好忠
好忠

同

こを野のささ山まうふたてる松芳尺何にうられまゆは
好忠
好忠

同

まとうてを野の山ふまれ連うらめふ珠しきあゆみの雪
好忠
好忠

同

つりあさあがの山乃らくるれと思われもあふ人思
好忠
好忠

同

雪ゆのささ乃り尺を池にゆらうし野も春をまふれなり
待賢門
守塚門

同

あさ川水うささまもぬきしとを振をこすも花れあうは
好忠
好忠

同

あさ山尺何にぬるふらうしぬ時尺尺尺尺尺尺尺尺尺尺尺
好忠
好忠

同

一野山今の陽やあまやうしんすこれ望ういふふまう後
大臣

同

極の咲かす町をうし山尺ちもぬけらぬみ梅の白くも
後理大
夫弘李

同

極をまうらまてうまつうてる野の山とをふいけうれ
源定信

同

これ人もうし野山尺まうむはうとあうぬもや野尺埋ふ
平兼盛

同

ちつこ春の尺うりたりとあのみりさうり原を霞こぬはつこ
大蔵
匡房

同

白もとこゆらよ志し見を野尺芳野の山の花あうらむと
好忠
好忠

同

こを野のささ山まうふたてる松芳尺何にうられまゆは
好忠
好忠

同

まとうてを野の山ふまれ連うらめふ珠しきあゆみの雪
好忠
好忠

同

つりあさあがの山乃らくるれと思われもあふ人思
好忠
好忠

同

雪ゆのささ乃り尺を池にゆらうし野も春をまふれなり
待賢門
守塚門

同

あさ川水うささまもぬきしとを振をこすも花れあうは
好忠
好忠

同

あさ山尺何にぬるふらうしぬ時尺尺尺尺尺尺尺尺尺尺尺
好忠
好忠

新古今春上

同

同

同

千載春上

同恋上

同冬

同秋

同

詞花春

同

同

同

同

全葉春

花野山より花さすの道恋てまこみぬ方の花を思ひん

西行

花野山をわらうるに白ふらんゆらりしあはぬ奈の白雲

藤原家
衡朝臣

花をみるみらの心も葉も三分て花のまよの春のめり

正三位
李能

ゆく春の春月しと盡ししきぬ恋と思へこころのく花

成成

時をもちまいたのむら鷹乃別あり花散らるる心花野の中

源具親

らりあふ花りよそめを花野山麓しあしく春のこころ

刑部卿
藤原

こころはくさ梅の揺らりりるるもあはれさし春の咲

太上天皇

芳野山花れあはれとてまはりききふふり渡りぬく

藤原大
政大臣

芳野川より花吹雪にまら茶花さるるらりるを心

家隆

こころは淫も吹雪を力のりりて花野花さるる月と心

近三位
頼政

こころの山の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋

推諺

こころのく山もまらるる雪あはれを藤の里を打町あはれ

俊惠

花野山より花さすの川流る鴨う鳴り山よりみ

陽原王

音にのりあはれとすあはれ花の流をまらるる神よあはれ

不知

かや花野山の山の花とより花野もみるをりるる

俊成

花野のやふ花野わくれもふこ島野のまじ花野屋あはれ

味印
幸清

花野でこし紫のすをりてこまじのれくもを花野の山

慈田

花野山やそ花とこふ力を花りりるる人たまつらん

西行

ゆきひても花とこりて世やも花野のれくの秋の夕暮

五原
藤原朝臣

花野の山花れれり結へる花の下のもをこころ

花原
基俊

花野よあはれりるる三花野乃芳野山の花のけみら

藤原中
言長方

花野の山花れれり結へる花の下のもをこころ

藤原前
太政大臣

同

同

新勅撰春上

同

同

同
新中

同

同
藤上

同
恋一

同

同

同
秋上

同

同

同

同

同

同
下

同

同

つゞり花咲くらん野山霞りあまら岑の

叙進

互ぬふ山若野の梅もさてあけをまほしく春元山り霞

美白左大臣

春を皆物ほ梅とるをこしてをまほしくまほしく野の山

後京極
大政
俊重
俊師

こを野元花の威と志こほりて白雲とあや梅らん

家隆

今日忍れをまほしく梅りて理はく霞りてまほしく野の山

朝臣

まほしくぬ梅りてまほしく野の山りてまほしく

能原行
能朝臣

あまをあんほまほしく威の芳の山りてまほしく

赤陽門
越前

白のれと芳野乃文ハ川一橋を岸元山吹りてまほしく

前
美白

芳野河津津志根の石乃あまわけてゆりてまほしく

美白左大臣

し女子の神ゆりてまほしく白妙小芳野元をまほしく

美白左大臣

雪ゆりてまほしく野の山りてまほしく

持統
天皇

あまを川りてまほしく志根の中よカとくまほしく

後京極
大政
大政
氏朝臣

秘ありのたりてまほしく志根川志りてまほしく

推延

みまのそくまほしく若りてまほしく

二条院
二条院

咲ぬまほしく花とみまほしく野の山の白雲清りてまほしく

推延

まほしく野元山りてまほしく春毎りてまほしく

推延

まほしく山りてまほしく奥りてまほしく

推延

まほしくのくは野元山りてまほしく

推延

まほしく春と雪りてまほしく

推延

まほしくのくは野元山りてまほしく

推延

まほしく春と雪りてまほしく

推延

まほしくのくは野元山りてまほしく

推延

まほしくのくは野元山りてまほしく

推延

新勅撰春上

同四

同註三

同

同

同註一

同二

同

同註一

同註

同冬

同夏

同

同

同

同春下

同

同

同

同

人道前
太政大
臣
修成

浅きころり春をまぬもやみおせは山乃意乃多よみゆらん

壬生忠見

氷くく春をくくしとあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

淡人不知

つすはるけりしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせし

西行

霞を雪とよきぬとふりしとふりしとふりしとふりしとふりしとふりし

俊成

霞を雪のめいあぬあつたけりし野は山は花のしづかやあくらん

後鳥羽院

楓花咲けりし日しりあ野山をひくくはくくくくくくくくくくく

定家

あても秋奥うゆりしき芳塩はくく野は山は花のしづかやあくらん

太上天皇

あよさふりし野山の花うらやあよさふれとまりへるあゆん

俊成

あはれは秋葉のつとありて花はふたりまよとあ野の山

前大納言

あ野山ひくくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

藤原隆朝臣

あ芳野をむふりしつらふ山はあはくはくはくはくはくはくはくはく

定家

あそくくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

式子内親王

氷上より楓散じし野川一若あすけりし花にみよはく

郁芳門院

あそくく春やくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

延光院

あ野川ついでうつろふ山吹の春の日照とせせりなり

入道二品親王

あ野川ついでらし春も今日け花はあはくはくはくはくはくはくはく

土師院

あ野川ついでらしとみぬ夕暮よ座る野は花乃音乃とうすたり

權大納言

あ野川ついでらしとみぬ夕暮よ座る野は花乃音乃とうすたり

赤陽門院

あ野川ついでらしとみぬ夕暮よ座る野は花乃音乃とうすたり

八条院

あ野川ついでらしとみぬ夕暮よ座る野は花乃音乃とうすたり

高倉院

あ野川ついでらしとみぬ夕暮よ座る野は花乃音乃とうすたり

天上

あ野川ついでらしとみぬ夕暮よ座る野は花乃音乃とうすたり

基俊

同

同

同

同春中

同

同

同

同

同

同下

同

同

同

同

同秋中

同

同尺数

同恋一

同三

同雜上

漫抄撰准上

同中

續古今春上

世中しつれぬとつらと芳野川我のこゆりきみくつやるゝ
静仁法親王

春庭尺方の初達とこらうの山ふきふあへ書きありし
雅成親王

心つこもしかりとけよ咲袖て花もたぐりうら三つ一燈の山
後鳥羽院宮内

芳野山さしりおくれ白さやうこなる春はあつくさるゝ
有朝臣

春こしよとやうけしと春野花たきこきふしき者よ咲たれ
太上天皇

り一野山様ふらうゆふ庭野もは海浜のつらやあまらるゝ
後鳥羽院

春野川にゆも水庭まらうらん地まはらうらふ野のさし波
祝部成茂

みる野の志のつらとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
後鳥羽院

とふのれ春野花書のさ根とてむもとよとぬ月をみる
僧正行意

こらうけく流津あさよまむ月や冬もおらぬ水なるらう
素還法師

春野川流津川流音のさるゝとけしとけしとけしとけしと
為氏

と原さすのみしとあり雪のさしとともなる所らうのさ山
衣笠内大臣

持統天皇春野花文のさるゝとけしとけしとけしとけしと
佐保左大臣

うら海山秋風さし揺りて春さすはみ妹もあつたぐれ
大正

つら候春野川にけしとけしとけしとけしとけしとけしと
定鎮大僧正

流のしりたせられとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
後鳥羽院

と山よて春野花奥と書ふと書あつり一町ぬあつるる
正三田知家

まさしぬ春野川の水上やりと勢れ山の中をけしと
延茂

又けし八山つげゆと春野はら打つるの川の枝のさのぬ
中原行突

大巻と紙紙とて

七広の春野川にけしとけしとけしとけしとけしとけしと
僧正行意

同黄

七広の春野川にけしとけしとけしとけしとけしとけしと
僧正行意

續拾遺春下

春は山に花を散らしてさくらんやあけくさのつゆ

俊成

續拾遺春下

春は又花の都と成るをさくらんやあけくさのつゆ

俊成女

同

芳野山にけの代の春のあけくさのつゆ

前大納言 為氏

同

山をみればさくらんやあけくさのつゆ

在原朝臣

同

春野は雪の氷にまじりてさくらんやあけくさのつゆ

順徳院

同

一野川にけりてさくらんやあけくさのつゆ

従三位 行家

同

春野川にけりてさくらんやあけくさのつゆ

正三位 知家

同

さくらんやあけくさのつゆ

不知

同

芳野川にけりてさくらんやあけくさのつゆ

在原朝臣

同

浅きさくらんやあけくさのつゆ

在原朝臣

同

今もけりてさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

春野川にけりてさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

山をみればさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

春野川にけりてさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

春野川にけりてさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

山をみればさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

春野川にけりてさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

山をみればさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

春野川にけりてさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

山をみればさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

春野川にけりてさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

山をみればさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

春野川にけりてさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

山をみればさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

春野川にけりてさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

山をみればさくらんやあけくさのつゆ

不知

同

新後撰春下

同

同

同夏

同

同秋下

同冬

同

同尺教

同

春の平と尋ぬ人やうの山をともされしつらとみりし

いふ野川奥を花よりうまれぬ故にこれ故にふま

つさゆくも芳野の山の山守と花はゆりるを人よ云ふ

山芳野の花の白帯ありうまれゆきとさうふ山に後

み月ぬれ種りしを經みふたこく満の若草をふや川

うり川流は岩波ゆふけてあや人やこそま志のう

秋のふのありまゑとくしめたるうのく月乃的方乃や

うり乃川さよまほ田の山はふ秋らぬ流のうゆをき所

あや川岩まきあつる流にせれつ川のうとこま水は初ら

勢乃山流は花をよられ花とうりゆくこ福の露あそみる

芳野川花乃岩波ふあてくも心せ成春れとさうりくま

山を野乃うつ分山は流の流も末をゆいれ流なりゆり

芳野山わきてみるへふまゆ心志ささるも春の流うぬく

さくくむらむをゆてこあや山やうもぬ流がたう

出入あやなくもゆりなうんうれをのかれ山りなりゆそ

参り乃くま又や尋んうの山分を能くしりれこる

いつりも遠ふりしとあ野やまこあま川帯もけりく

ふれまてくれこうのく山極ちるぬ流は流けてりり

流なりく遠て白ふりくも乃春はまうふ見りくのく山

見あ野の山乃のりこの極元へふあれぬ人をみりり

月のくく花のよこまの初て極小あうびこりりゆく

みり野川春乃花園は吹くやうりくも春乃よの月

寂蓮法師

後鳥羽院下野

権中納言長方

前大納言忠良

後鳥羽院

後九条内大臣

後成女

北朝崇手入道

前再政左大臣

前僧正

實伊

後京極太政大臣

權少僧都

法印

法印

津守

国平

九条左大臣女

二品法親王寛

助

那美白

大政

西園寺

入道前

同

同

同

同

同

同下

玉乘春上

同

同中

同難上

同尺教

同

同

同尺教

同

同冬

同秋下

同

同夏

同

同

同

同

同

三葉春下

同

同夏

同冬

同

同

同悲一

同

同

續千載香

こゝろの山のあけこよな花と吹しす風たすりあそらる

前中納言推頼

とをた乃去りとゆきを鳴蛙むつも鳴るるの川の瀬小

不短西園寺

今もこし梅甲の如くを野川水乃ふ所人せくこもなり

太政大臣

ゆふ所れを麻代も後れと春の瀬は海内ふ所後すりとも

如頼光非羊

時あけの林山乃里れさゆら歌と衣がきり初雪やあけ

前中納言大臣

音ふれと道さくしりるるを野山ぬとく人の為ししゆと

後成

春けりぬ花もみりともや後を野れ玉松りともぬけり白雪

権中納言長方

流瀬津音とたてししり野河水れ心きり気くさるる

為家

中ふれをの川をのせなくひつと藤乃山と越てみるをく

参詳墓

つと野山にたふみしてやまのくを野川の溜まくとせ

参詳墓

まとにりりまこと志る雪れあつても原うきさぬりりぬく山

伏見院

頃を野を野山をり二月れをも高者の流るあつりり

条院

うり乃山を花こそきりりるれ城りりりりりりりりりり

中々

音ふきく芳野の様とふゆりり後者よ山守花のゆらるる

柳本入唐

梅さきとみぬさりり三芳野れ山れりひりり春乃白くも

慈鎮

りり野山霞の上りりおれをや香れさくこれ梅る海らん

直秋門

と芳のく山よ入もん山へと成てりりりり花れあくやや

鎌倉右大臣

を野山すりり梅乃又なくも余取もやこもりりりりりりりり

誤大

白をきとまわりのまてりりり野山をのねくうりあくは来を

権大納言

こりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

平貞時

花とさなくさびりりやみ舌の山とほせの外とりりりり

前大納言

ゆりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

野宮左大臣

同

同

同

同

同

同春下

同

同

同

同

同

同

うー掃河花乃志うー思ひえたり瓦上の揚分やられうん

前内大臣

同

何くう花ちりけりうー若野山あうーの泣うーうう白雲

國冬

同秋下

若野山くもりの雪とみる正小まぬ乃うーふねそなきう

後鳥羽院

同冬

花の凡月とゆく夜のかん若野の山風をこころもらうん

内大臣

同

若野山春の風も今よりこころさびく日毎うーつりうう書

法印

同

いこころをこころせれと若のく若のくわくれ雪のうらつ

後二条院

同

天京そらううさくうーある雪よ思ひこそ屋達とあややあ

祐子内親王家

同恋

若野山やうとあううの若野うこたうとみややあううう

西行

同遊上

つり涙うーや若の川とるれつと縁の山乃泣やうつふと

津守

同

芳野山あうーさううのえさううたうれぬ花やこ村の白くも

源重基

同群下

ゆら若もゆくをううつひ若野山みーそ若のそくれ下道

二品

同

あくそもうさふさうーや芳野のまくい世旅いこみ果南

上人

同

つふでんつうさふれおそをて芳野の奥を燈よううそを

入道前

夢後拾遺春上

老たかた芳野の春のそくかて浮世旅あうるはあうよま

親王

同

うー野山雪もさ泣も過りうー霞うまれさるをるうまきう

源信朝臣

同

うー野山霞うのりきふーりや若京しつりおほひん

不知

同

ふ霞うやまうーりり花つりうー野のこ雪分やあう

前大納言

同

と若野のむいあけく若うひもさうりう方ふうはと鳴うん

土院

同下

揚花咲ぬとみうて若野山をし中もわうぬをううこけ

若原為朝臣

うー野川忘りと揚咲ふらうと今うり若くく花のうーう

前持左大臣

若入うーのくわくの揚花むひもあうくさるたまきれあ

三左入道

同

古野川流りく花れ白ひまてうけみり水う春風うぬく

伊勢

同

古野山花乃花とをししはうりばもあもろうる人成よま

西行

同

古野山花乃花とをししはうりばもあもろうる人成よま

前文納言

同抄下

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

大徳つ有家

同物名

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

権中納言公雄

同恋一

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

借按三

同二

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

従二位行家

同雜二

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

順徳化

同

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

不知

同

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

馬道朝臣

同

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

正通

同抄下

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

後成少

川推

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

中實之

同

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

同

同中

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

法宗

同

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

定回

同

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

家隆

同

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

前中納言

同

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

藤三

同

花をのしとや一思流うりみ古野の持よ花けらまぬ乃所ま

後鳥羽院

同冬

爪指*

同群上

同

同尺数

同

新十歳春上

同

同

同

同

こゝろ野やふく雪を埋まて松のまゝうら雪のりさほ

近野の山より雪やありくいとついでわりのぬね散るは竹

云野山のたぬちと雪やうらふ初ぬましく乃志こ分り

をりうさき何くも花よはくさめそりやるが奥もあし

世入れを野に花より春のうたへくはくをふまぬ乃は

左田川に葉もひり花をまのくを野の山よさくし花さく

宿のくぬついの雪より春のうたを野に山よりすまひり

春くれを霞のまよ清てるとを野に山に花はしりうら

春さぬとせうあめ原をうらめくも花さこゆらみあのみ

まを花はるやうらありのうらとなくありありわらう芳野山

思やうしものこもこも一帯を花まらうら花のゆりみ

西野のうら根は花はしりうらありのうらうらひは

うらをさすまのめもしりうらとめしうら花は成りまあのみ

西野のうらより花のまをなうらて花やついで春の白を

花くれの春をうらまうらみり野に山の花はしりうら

咲やれい雪と雪とい埋まて花まらうらうら野にやあ

も入り花のわらうらうらうらうらうらうらうらうら山

云野のうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

春風はれい雪と雪とい埋まて花まらうらうらうらうら

互をうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

花てまらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

みりうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

津守

賞之

寛弘法

現王

法印

長安

慈鎮

院

元笠前

如大臣

位三

後成

前茶

推有

二

後醍

民部

長

法

寂

二

後鳥

弾

邦

王

兵

成

後

前

中

天

同

八ノ下ヨ書ニミヤウヤニ若野ルノノ様春ノ後ヲユク

為道朝臣

同

春風ハ麗リリキテリノ野川水の上リ花ノノノノ

淡人不知

同

野川ハ麗リ白流ハ清波ニ流ルモツク花乃久ク

止三位知家

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

新十載春下

同秋上

同冬

同

同

同

同尺教

同難

新拾遺春上

同

野川ハ麗リ花ノ波ノノノノノノノノノノノノノ

後昭命

為道朝臣

淡人不知

止三位知家

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

後昭命

同春下

日よるるてたちうりさかりみ芳野の香の山の花れ白き

二条院

同

かゆい花不取もりうりさかりさめりさめりさめり

権大納言

同

と香野の香末の極咲や

前条院

同

三香野花れ香るるまき

前条院

同

香野川花乃白波り

前条院

同

花つ乃香野の極咲や

前条院

同

香野山やりの極咲や

源重之

同

これも又まぬれ

後院

同

うー川岸うりぬり高

左大臣

同

花所のぬ接とみ

後院

同

きよみ連る川は

等院

同

波くる杖も

前内大臣

同

袖の包を天つし

後院

同

あゆり日え

左大臣

同

そのよのあゆり

二条院

同

かりけりる

為氏

同

あざ山あかり

因寺

同

川の神に

大隆持

同

浅き

淡人

同

う花事

平親

同

通て

法宗

同

お調

前中納言

同

うー川流つりうれを氷るる山下田やきしきされつし
長秀

新後台置春上

晴やうなくもし雪けり長風ふそをりたきらるる野に山
兼盛

同

芳野山今逢も雪乃あり里ま松の葉ちろきまのつげり
後京極
機政前
大政
中務
宗宗親
王

同

花雪小埋まてり三三野にわりのま摘まて成みきりしれ
伏見深

同

梅花さちれやりのこみ春野りりの山をりすそこあつ
伊製

同

さう花いぬや咲りんと春野の山さうとこてふ雨うゆ
伊製

同

か芳野の山に山守もくもん今ゆく日ありて花を咲る
後院
朝臣

同春下

梅花あまふり町とと芳れく山乃りひうわはうあもきれ
道兼
朝臣

同

うー野山ぬれ下日ぬるてゆひうゆりまそてれ春の
道兼
朝臣

同

春野山ぬれ乃をとりてふりし接りうへり春のよの所
惟明
朝臣

同

三春野に流は川内うーお花もあても流ぬ水淡けらう
大臣

同夏

お花の町のみもりーや春野ありぬえりお所きり山吹
後院
多院

同冬

見春野の川音さきありぬりー志中させぬ流れー淡
伊製

同

春野山ねくーつりの白書ハるてり町くるるまきり
因助

同

春野山にぬれひち後ー雪ゆり甲をやふ人し
因助

同

芳野川流てこれ春なを互にれりけとくれま春の
前中納
言匡房

同雜春

春野山にぬれー川をぬりさけりさけりさけりさけり
中務
宗宗親
王

同

春野山にぬれー川をぬりさけりさけりさけりさけり
源頼貞

同

春野川流とー川をぬりさけりさけりさけりさけり
法眼
頼貞

同

りーの川水心もかまーまさあうれくみぬぬりさけり
朝臣

同春上

春野山にぬれー川をぬりさけりさけりさけりさけり
因助

同

春野山にぬれー川をぬりさけりさけりさけりさけり
因助

同

春野山にぬれー川をぬりさけりさけりさけりさけり
因助

同賀

芳野川岩より一とす波乃為盤盤を我まみの津代

前中納言定家

新古今卷七

五葉の人も回へふ三芳野に寄るゆゆのぬりまめさ處りれ

五原隆信朝臣

同賀

一野川氷をけり春の波よりありぬれぬは初花

式部院連

同春下

傷りよ乃トのゆのややなぬ外不為ぬみより一のゆ

後山藏

同

芳野山嶺北のゆとくわりのぬしめてもあつた花乃ま

後同三司資

同

一芳野のつゆも花乃陰るれを分て枝乃返を為祥也

四辻入道前左大臣

同

み波をま花より外乃をもけりばささりぬれと芳野の山

中務卿

同

花ゆりるを移ふりくぬ白雲れうろろふ方やみよりぬく山

又世入首前大臣

同

世波のやふむるでも波なへし花のゆりるり三芳野川奥

政入臣

同

春を初咲らぬ花中ふ流れり一野の嶺を波やうふり

朝臣

同夏

物まこまより一の里に卯の形も初まの八月のこそをん

奉院前

同秋下

霞到てあつたの石とけりむうん花野川奥よりまの月

後鳥羽院

同冬

と花野川花を思ふもよりひたを粗りるけく香れぬ水も

後京極

同

り一野川嶺のちり波あつて花ゆりるけく流りぬり

同

同

風うじと今日も電れゆりここを花野川山の寄りやろ

同

同

芳野山ゆきあり花もれりんへり一人は返さふゆ

土佐院

同

けぬり上お花つり一えて芳野山雪ゆりるけく流りぬ

前大僧止良瑜

同正一

あつて世も花をれまらるるあて花野川岩打枝のゆあ思ひを

城恩寺

同

つゆりるのゆと世の中お花つり初て花の嶺を神は懸く

後小

同四

またゆもをえり一花を花野川流てまなくをりしそ

神

同正一

春をこもあつたゆり種も三花野の山ゆりまなくまの千を

前香詩

同

世波流れゆと山れをまらりて花野のねく乃花やあむ

僧正

同

高野川下やくも春乃ゆあよりの山ぬきの朝臣

同

のし吹きくた下きう一掃ておがれ山よ心多ゆらるる

同

一町ぬこふけりーるみおの芳聖れたさつ志しくくるる

同

おうふりのぬ摺もさうさうおをてるあつ所若野山

同 雑下

お野川りーやせおふはせさるはとこみてそ又秋くつれ

横野堤

和泉

勅撰各所抄 漢語草本 富田

優古今冬

お松のよこ野に堤田こきて入志くさくちりなぐりり

金葉恋上

定継橋

指洋

さうらりや淀乃継橋よとせよつれはき人をおぼれくも

優古今恋五

海のく浦の淀乃継橋はるもせをりしで人とすりくふり

優拾遺恋五

年へのり淀乃継橋まよよふりさうの中とほやくてりり

舟さるいふの浦波にれくと川もよ波れすとこれ橋

喚續濱

尾張

新後右遺雜秋

お海邊夕ぬらりり立坂の友よひけられ候ーりなくるる

新古今雜下

横川

遊江

おうらおれ八重五やく山れよ川に水をささよりゆらり

新勅撰雜二

横川のよれけおとふらてり見ゆりり

おをよ山をよめくれ村町るあてもうふ世よゆらう想き

同 雜三

おの川れ水やまきれらん涙乃ぬ乃やせよふたれい

風推尺歌

おのりりれ乃末さうらーやよ川乃根れきじとそみら

新千載雜中

おのりりよ川れ根乃下りけりーひ乃水とほよゆらりれ

同

おけれよ川乃水乃末さうをてはまふひとらんおまきん

法印 雲神

原茂氏 朝臣

家隆

勝金 法師

権律師 山元

雄進 法叶

坂原 光俊

長安 口母

從三位 辨非

光胤 兼光

兼光 兼光

兼光 兼光

兼光 兼光

天曆 修善

法印 聖覺

東三条 人信

政大臣 大臣

前大臣 言為家

前大臣 止公

新後拾遺頁

しつら八重五思れみりるふよ川の木もあうまさららん

世後れられてよ川は後ゆりきれしうらめれ

同推下

三つこども燈さしころ山甲一ツふらう一墨傑の神

新後古今推上

思ひおのる井乃月れ債をよ川のあふりてまうてうみる

同

的つふよ川の鐘の音りしてまの八尋乃の音そよ深き

余の浦

送江

伊香郡

空葉冬

衣よよよあの浦風さしくてこさる山小常ありふり

横野

上野

八雲口抄 宗氏田分勅撰 各所抄藻編ま等當日云々

藤頼綱 朝臣

新後古今春下

芝川根こふよこ野乃つ不意下神小浜まんとふもむけんし

俊成

与謝

海浦 倭

丹後

与謝郡

千載羈旅

とふ事りてわを海しよ川の海乃天の橋を裂るをとき

赤津 土門

新後撰上二

うらりよよこの浦波をそね思ふ小のあく神とせよ

藤大雅 後法性 寺人遺 前美白 太政大臣

漢古今冬

偽まやよあの文井の所よ子音をそふ仲うそそ月う介

衣笠前 内大臣

新拾遺春上

よあの浦れ燈鳴りししんらわ後うふの松のけりら

藤原隆 信朝臣

同冬

夕ゆふよこの浦松音あそそらうりと後れ明ぬあふよそ

後惠 法師

同恋三

ついでよふおめぬは乃らなくと待を鞆而よこの浦風

雅徑

瓜推群上

よあの海恋つころの方お仲う丹のり急うすも

權中納言 長方

新千載春上

伴さるようよこの登人おわく浦り後ゆらく夜後まら

惠慶 法師

新拾遺旅

泊すのよの夜の残の夜控さよそをゆりめよこのうら

大納言 偏具

同恋二

よこの海の登れ去りさよと巨福とよそも我やくと端あれ

和泉 式部

同雜中

よこの浦入海りて見りこそとわりく返さそわ橋を

前大僧 正教覺

新後拾遺

新後拾遺

新後拾遺

松尾てらこやこれ邊の夕もくそ分もゆりまじし仲津のり邊
廿五日の間の明方より反もふいふちりりマりり
千鳥鳴よさけううきしとよ部一きよ路のまくくし

後京極
磯政前
大政
按察使
資相

兼信
朝臣

新王津嶋

山城

新王津嶋法方合より律祇

玉津嶋白丸くくに云れ奈乃あ中のみ町く矢やみの原

前大僧
止光沙

魚水二十四年新王津嶋此や一法く

まうる首打舟一此月うり一法祝云く

つふり

今

今よりみ後すもたりま交并りぬりてこれ法山の玉つ嶋ひめ

權中納
言推録

新王津嶋法方合より律祇

蛛乃くものつすち候くつひてくぬま奈れ玉つ嶋鳴

たのむりぬ我取原乃部一り返とれ初一玉つ一ぬひめ

權中納
言為重
後福光
開政
前太政
大臣

新後拾遺

同

同

新後拾遺

同

竹田原

續古今夏

五葉赤

續千載買

今物たふもよとこめてらん昔川や竹田此草茂とふり
打波は竹田の原よ鳴たつれはななく町なり我ふらくし
空よりん我美代れ友されやと赤田此魚は所う乃徳と也

玉川

新古今春下

續古今春下

五葉赤二

風推春下

同

同雑上

物とつて我水りたる山吹花の所向うふのてれ玉川
玉川の岸乃山あさうけみしてらん昔りなとこは煙鳴る里
とれりてし井てれ下帯りめくりあふゆ嶽さか川乃水
るされうと端めての山よきのとと後志あん井てれ玉川
山ぬさの花のさうと玉川の流てとやふい家のくれれ
山吹乃流乃志りらとくれととふさとさらぬ井とめ玉川
山城乃くれ下帯水日うひとひりありぬ玉川のさ川

同雑上

新後拾遺春下

新古今春下

れうらそ井てれ玉川を流と八重小やへうふ山よきの花
後てさる人やりうらん最まの夜とふまのび井てれ玉川
山ぬさの流あす波もゆゆととらるひゆり井てれ玉川
玉川の流よたら行く川吹と我りともゆら磯井との里へ

玉井

新後撰尺教

風推申上

新後拾遺春下

院初しりとれは乃きよとれと濁もててぬ玉井のさ川
ぬいぬ人よくまるとれりてとこふ流ひ玉井乃水
凡平の井乃流上ふみぬへ月とてはの浦くりひあん

糺

新古今恋三

糺を糺は社のゆあぬとさうけはくらりを我と作もとく

淡人不知

坂上即女

法皇

俊成

後鳥羽院

俊成

同

後鳥羽院

前太政大臣女

行親

修成

前太政大臣

三平

光院

道前

白太

一品

王

信朝臣

式子内親王

愛宕郡

平貞文

同神祇

玉葉冬

もとねるひのまるとしとれりみやりあけりたすうま

慈山 伝成

拾遺雜下

雄山

ひさるるのま雄山とりひ互れまやを家り奉りやま

新助撰尺歌

玉葉雜二

はつたはつたの岩なりま雄山人もあたり遊うまよし

概村

まよ山清源川とをりりみて若くけめくれまうりつみ

珍田

山 川 河原 里 大和 平群郡

せくさてもてまうりゆと山城のま概村はふふりりり

古今春下

はかのられりりや倦りき春花の田は山の号のし

同秋下

五田川紫糸とりりれれかひれ三室山ふ町あ路りし

同

千あ振林代もまうりりたの田川唐船よま川とくれも

同冬

ねるひ山とをゆりねあまは五田川まそぬあしや向れ

同恋三

紫糸のほるまともは田川あのみまをいしほのま

同雑下

年毎にともりをりりす田川濠や杖れともりりりり

同

田川錦竹町くね正月町あめとらてぬまうりり

後半秋下

せきもまうりりるま名の田川海りて止ん袖けりりみ

同

田川とゆつらまは田山よまよやあつひりりりり

同

流まうりり綿竹町唐衣田川山うりりりりりりり

同

馬子のゆけりりりりりりりりりりりりりりりり

同

妹のひもせくとあふりりりりりりりりりりりりり

同

後撰秋下

鳳鳴てきき物のあはれ〜たの田乃山と見せせりのを
不知

同 かく汁をこぼく又のころん〜錦糸田の山このりふり
支別

同 唐衣五田の山此もみら〜と袖とふ人れたり〜るをりり
不知

同 唐錦五田此山も今よりわさりみち〜とたをりり
貴之

同 一衣五田乃山乃もみら〜とこれひらき錦也
同

同 取とありふ杖〜と回び〜錦五田の山此もみら〜とよ
不知

同 五田川えくれふ井〜と汲よる〜山此もみら〜と今を
同

同 五田河板を水マのけぬ〜とあつぬ葉乃板取まけ柳
同

同 五田川あまん志げ〜と山りの見後あ〜水も葉とみりり
貫之

同 五田川五もも〜と名と北〜とつと藤乃杜のま〜とそ
同

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同 秋をきぬ五田此山もみ〜と亦明ぬをよ〜とや〜と
不知

同

同

同
同難下

新古今
春上

同

同

同

同
同秋上

同

同
同下

同

法田山廻りし乃ぞもまゝんと風の傳ふりみらとそみか

成仲
前中納言
言匡房

五田山並りみらとそみとみまをみまをばりぬりともゆらへる

河なへてつさみよゆん法田川白波よすう降れつこまを

捨りん人らび人し此をむりすこ法田山北初まうけか

うろくまやさ天尺橋味よるし五田乃たぐにうろくま

白き乃五田尺山乃八き橋つらんをれとわさてはつらん

しつむの春きりさゆと五田山小念ハ昔小虎白ふら

釣登尺法田尺山尺里なして秋きたりりし澄の三浦

法田山よとれりし一尺松かけをまうらうら法田尺月新

法田山後すはうふ成うしよゆりくも康のうもくならん

びとわお茶やす法田山北ハ町あうりいれぬりのうし

たつた川流や春うりよもれらんわらうぬ水も錦迄りり

唐錦杖の町さや五田山らりりぬ杖小のうし吹や

たつ尺山秋けり人尺神をみや本くの橋を町あうらり

まふ杖を五田尺山よ五雲乃ゆえもしぬ神をそす

杖所けりわり人こゆら五田山立ても井ても袖さうら

白妙の本綿背島もま入りひ鳴や法田尺山乃らうし

是列のや海とさのしぬ唐錦法田尺町あうらそびらん

五田川三室の山乃道多けりお茶をばさうぬ日るなき

秋も今日知くく法田川尺縁尺なともまうしれらん

あし志くく回しほじれらるし法田尺山れよもの白波

五田山お茶尺錦をまうて鳴とりあ島の敷乃ゆあし

同
同難一

同
同尺教

同

同

同

新勅撰
秋下

同
同難中

同
同卷二

同
同旅

同
同冬

言内

同

慈田

權中納言
後忠

入丸

家隆

雅任

美白左大臣

雅任

法眼
宗山

行念
法師

續後撰卷上

同秋下

懷古今秋下

同

同冬

同

同旅

續名遺抄下

同

同

同

五田の五たの香凡柳のけりれもやうぬぬのこくき

五田山よりそれお葉凡ふよう町ぬぬ松の種もみしり

れこめは杖をくぬらぬ五田山お葉をぬらやもふま向て

五田川のみち流て物杖の種より分際やつりくりりらん

五田山今い木葉も種五日町ぬぬうをそやりまきれん

流りもつりのえ乃流るれ五田川河に倒れともな

五田川もみりれ松小宮をつり五田川山にきふきまこん

な流りのお葉凡と種と五田川川山も水乃杖のみしり

五田川岩より流乃と物流りせまこき無名れ月小みゆは

五田山木葉多流く種より町ぬぬううぬぬあふり流りれ

五田川河らぬぬ葉凡松にして五田川ゆきせのちりり

五田川山木葉吹りく杖ぬぬうあてりり流く松乃下茶

五田川杖を流れ凡とみり木葉も冬乃こくれるるるる

五田川おぬぬ葉をれり白流り五田の山れ物ぬぬも

五田川おくく流杖のふきもりりれも種乃下り果ハ

五田川おぬぬ葉をれり白流り五田の山れ物ぬぬも

五田川おぬぬ葉をれり白流り五田の山れ物ぬぬも

五田川おぬぬ葉をれり白流り五田の山れ物ぬぬも

五田川おぬぬ葉をれり白流り五田の山れ物ぬぬも

五田川おぬぬ葉をれり白流り五田の山れ物ぬぬも

五田川おぬぬ葉をれり白流り五田の山れ物ぬぬも

西園寺

八音前

太政大

言為家

淡人

不知

中納言

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

成賢

同進三

五田山のしちの音さやと此甲そのまじりちと音へよ

同夏

今よりわもまきれく麓の傍いたの田の山乃春れあうくも

同夏

くまの山乃藤さうめつうまの物の初も

同

五田川河ははとにちそひぬ三室此山のありぬれよ

同冬

五田川水乃秋と心つうらんもみちを所そふ春れあ

同冬

唐錦五田川乃繁さう水元あまうなを浦とれ

同

五田川水乃上みりけてりり祢代もさうぬ雪れあうゆ

同秋下

五田川春乃繁のらうぬまもさう水の秋さみりり

同雜上

花をさう下ひもとけてりりも五田の山小白春風

後後拾遺春上

りり五田河ははの川風さうぬもてびすふち柳のり

同

りりし加とさまきりりも春邊五田の山乃藤やう

同秋下

五田山心まきりりもさうわ雲并れり小我はまにりり

同

祢乃ひり三室のさうもまきりり五田川京小する月り

同

風のさうたのりみちさうふらうへさまふあえれ川は

同冬

唐錦五田りり小柱くれて繁成りり此山

同

五田川水乃後れあうらみも山のりり水さうら

同尺數

五田山心まきりりもさうわ雲并れり小我はまにりり

同

五田川心まきりりもさうわ雲并れり小我はまにりり

新十載春上

祢乃ひの三室れさう咲うさうへたのたの麓れあう

同秋下

五田山一ひりりもさうわ雲并れり小我はまにりり

同

五田山心まきりりもさうわ雲并れり小我はまにりり

同

五田山心まきりりもさうわ雲并れり小我はまにりり

阿一人

贈花三竹為子

菅原基俊

北明華

前抄政左大臣

贈徒三位馬子

權中納言

權少僧

都能信

後鳥羽院

二条院

藤原

刑部口

衣笠前大臣

令泉前大臣

從二位

中納言

院

前大納言

前抄政左大臣

修政公

三条院

同

五田山を上の松乃木前大納言

同

五田山大納言の松乃木言志氏

同

五田山西園寺の松乃木大納言

同

五田山式子内親王の松乃木大納言

同

五田山法印の松乃木定為

同

五田山元妙の松乃木法印

同

五田山中納言の松乃木為教

同

五田山後京掾の松乃木撰政

同

五田山大政の松乃木大政

同

五田山承隆の松乃木大政

同

五田山定家の松乃木大政

同

五田山淡人の松乃木不知

同

五田山津守の松乃木不知

同

五田山土院の松乃木不知

同

五田山棟本の松乃木不知

同

五田山原家長の松乃木不知

同

五田山朝臣の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同

五田山定家の松乃木不知

同又

澄み後うらやみかおる凡経田川暖くひてうらやみあり後
大納言 経通

同秋上

秋きぬとゆふ夜あきれ鳴り人ふ今物や支田の山の下風
八道曙 一品親 王守川

同秋下

ひあへうりりもわりも川田山後秋杖のりあをたつねと
後成女

同冬

支田山後杖の系杖くれてつれなき松ふなを志く秋るる
後鳥 羽院

同雑上

らう後杖結田凡山に春風よにらぬ北杖名ふより過らん
法印 寺遍

る園

尾上宮野山 大和 添上郡

新古今秋上

秋の夜さ神にそそる園の杖のへ杖まよひ違ふちやされ
孔昭

同

さあんの野ちのー杖月も来西まきそくや扇をふ吹ぬむり
藤原 基俊

同

お海や支田山の毛器もりひりるそーそふゆこころを月
堀川 流

新勅撰秋上

ゆふくれそまきそーさあんの杖のへ杖まよひ杖のころ月
鎌倉石 大臣

同雑一

さ園の凡上のまの月の月経忠をくそりのこうされらん
木下 道清

いさつう小花やちうらん高あ杖の巻のまれむらさき
行能

同秋中

おー海や支田山の杖月くもも月さ暮とい川月月
後鳥 羽院

續古今秋下

むはせよ町あ階みゆりひりそあ系りさしむさあれ
式部 真指

同雑中

さあんの凡上のまの浅ら系の連よしし後もゆく杖へむら
直昭 法呼

續拾遺冬

さ園の杖のへ雪ふ流としてあよーしまを人の海らん
徒二位 行家

新後撰秋上

ゆふりれむ杖風吹さあんの杖花のうへのあうと不れ
同

同冬

ゆふりめてもつく年少りぬさあんの杖上のもりのわのくや
入道 大臣

玉葉秋上

ああれが人の杖露あのにらんの杖つゆふされみきるるも
家持

同

あうあところむく白ふさあんの杖人の杖杖つゆあうらま
後彦 泷院

同

秋風ハ日毎ふ吹ぬさ園ハが人の杖杖つゆあうらま
淡人 不知

同

さあんの杖人の杖杖つゆあうらま
笠金村

續千載秋上

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

邦者 親王

同

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

法皇 親王

同秋下

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

僧正 行意

同

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

光明 手入道

同冬

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

法印 定馬

續後拾遺秋上

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

陣守 田冬

同秋下

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

民部 為五

新千載春下

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

威徳 藤原

新石道春上

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

大炊 門左大

同

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

大物 師頼

同秋下

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

赤人 藤原

新遺古今秋上

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

直昭 法師

同

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

從二位 推家

同

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

從三位 兼衛

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

山。岑

大抵

高木郡

千載春上

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

乳補

新古今春上

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

窮進

同冬一

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

淡人 不知

新勅撰春上

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

式子 内親王

新後撰春上

高次凡そ味やうし人凡神はふらもあううらふ

匡房

同 延三

つらひもさる乃山のさだりりも中も月の影成結所

後鳥羽院

同 冬

葛城やさまの山の影成くこれよそりりくもをみさるれ

大藤口有家

同

又方又日後拾遺冬のそくもさるひねをさるさまの山の雪乃くれま

後徳大寺左大臣

同

五海りし阿阿さまの山揚くこれしつれこお花はちれうん

新後醍醐天皇

同 春下

葛城やさまの山山た奈けくまのさ折れくもや揚りうん

同

葛城やさまの山山さくくもさるくもさるくもさるくもさるくも

同 延

葛城やさまの山山吹くくもさるくもさるくもさるくもさるくも

同

春さめと霞ふたひくくくくくくくくくくくくくくくくく

同 春下

白くこれたてぬやうの葛城乃さ天れ山は花咲ふる

同 秋下

又方凡むたたりた乃山さくくもふもよそれ春乃明り

同 恋

うくくまのさる山乃月けみれてみりく桂花志の奈

風指ま中

ちくやうふさ天れ山の奈のくもめもくもさるくもさるくも

同 冬

白雪ハ八重五奈とみりけりくさる山の山花はゆらうくも

新十載春上

雪やこれし難く高き凡山はみ取而も凡見はよのごけ

同 春下

伐しりそけりくもお立別しさる山の揚花ゆさるくも

同 秋下

あさくさふく高天乃山揚くそけりくもさる凡さくくも

新拾遺夏

のくくくやさまの山お花をいれてゆれ且ひしきまの乃月

葛城やさまの山おのれくこれくも中もさるくもさるくも

後鳥羽院

大藤口有家

後徳大寺左大臣

信実

前大納言為家

石原隆信朝臣

鎌倉右大臣

信盛井入道前太政大臣

邦者親王

家隆

入道前太政大臣

前大納言為氏

前中納言匡房

茶誥雅徑

石原基任

式部卿又和親王

匡房

後鳥羽院

為家

権大納言公明

推世

後醍醐院

同秋下

へ日山ととよしこむよわえ通つ高まの山の峯の深衣

崇徳院

同秋

ハ日くそくそに成りぬ葛城や感しさまのこゆの白くも

法印
公順

同恋一

葛城やさまの山よ山ととあれうそふりこやあんと心し

家隆

新後拾遺卷下

日よそくそくそに成りぬ葛城や感しさまの光をとも感りて

一品法
親王法
守

同

くもぬりらさまの極らりよりりつし女の神もふと

修身
羽院

同秋上

余ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

西園寺
前内大
臣

新後古今卷四

葛城やさまのくりのつふふふふふふふふふふふふ

前大納
言為世

珠城宮

大和

後古今春上

日此みのく時きのまのさくくさくさくさくさくさくさく

前中納
言定家

同筑

泥ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

清慎公

新後拾遺卷下

を向のむまの代は泣かして交并ありぬ又十餘川上

大中臣
定忠

つくはりえとうをて並かひまのまのまの月もまむらん

大和

新千載秋上

つくはりえとうをて並かひまのまのまの月もまむらん

大江
貞重

辰市

大和

拾遺卷二

てあつと辰の市とをさそけけけけけけけけけけけけ

柳本
人丸

川推雅下

あつと辰の市とをさそけけけけけけけけけけけけ

定家

さ山

同 十市郡

後拾遺卷冬

さ山のさふれつる夏八根八根も白かふかまるふと

井手左
大臣

子枕野

同

後古今秋上

白家の子枕八野の如るおれぞのせせれけさばる浦ろ

右近中
右近中

新後古今冬

子枕八野へは草うの若柳ふとてけけけけけけけけけ

兼好
氏好

子向山

神

同

近江同名有

同

同雜上

新拾遺雜上

新慶古今恋四

拾遺雜秋

玉葉曲三

新拾遺雜上

金華恋下

懷古今冬

同五二

新拾遺雜春

新十載恋一

同

新拾遺雜中

る師濱

傍津

歌波るしとゆき傳けるとれよのる

大津乃馬し此候乃松り根と枕にわれと家し

置始 東人

あも松る瀬の候小きすさて此根や志りしと連れ果てぬ 源家長 朝臣

つくとせり高瀬の候此も松りしと袖多く結ひきぬらん 晴命 法師

ちも松高瀬の候乃うりひ舟祿日く小舟扱りし里所を憂 季守 国冬

あもりもる瀬の候乃あもまうくくふりの中よ松や乱れぬ 長原推 長朝臣

竹河

里 寺

河内

あもりもる瀬の候乃あもまうくくふりの中よ松や乱れぬ

新恒

る安

同

五田のりしれ言もすなれ里を憂ししとあそくよ

阿一上人

玉横野

和泉

松根あひるるとをみのくるるとわのよこ野に秋の月うけ

淡人 不夫

る師濱

同

大島郡

仲の候きこの候の候松のふりしとをを待つとにづれ

貫之

言小す師の候のあこ波を松しや神乃のれもらとすれ

一宮 紀伊

極此によやきしし仲に及高師に候みちり鳴る也

源推言 朝臣

あも松る師の候れうれ松を連れををひえ我志のやも

定家

ゆり松乃言り師に候松ふりすみてしと春のゆみむと

平親 清女

松の子乃高きの候れ仲松波とよとぬえみふけてこひつ

前大納言 為定

仲つはよすしと師に候松れ孫りしとる松人うつれなと

盛源 盛徳

仲松波さし此候の極此によやきししとる松人うつれなと

善徳 修作

千載春上

新勅撰多

同雜一

續後撰卷一

續拾遺卷一

續千載雜二

風雅勇

同雜中

續後撰賀

みこころはよきれみこころはよき玉江の沼原のさる春物

白かれ玉江ののりれよひくくは秋はりのくひをりか

玉江乃玉江はれ海もろくこふふ回て福徳ありぬ乃也

つふら玉江の若のト根を世原をそかけと急人のまよ

こころをれ玉江はれ若れと小町くおふ乱れく福し三作

玉江乃玉江はれ若のよふも言さうりこれ秋のまよの歌

を清き玉江の水よやふ雲とゆるしけり人常しうとさる

言葉乃玉江乃若れ汝くまこ及くぬるまもせめて掛し

る濱

同 嵯下郡

まてまればふたもぬこしる濱の松むれ井取鶴ハ毛衣

言津

同 西生郡

られむんこのるりよむひやくさ津ハまよれむむらん

同夏

春のよの月ふきやちりひさる言津ハまよし白小梅りし

玉葉々

のまふきれ高津のまれ赤まふれみかたの赤種れうん

同雜五

かりふきれ波みひりくしまるを高津乃まよの的り力

るらふ高津のまれうとかりてむんまの若ふまふまらゆ

田菱鴻

同 西生郡

古今雜二

種乃浮ゆかりくりあす夜よまねく鴻ふたの鳴りふ

同 又拾遺雜別

ぬふらり田菱ハ鴻と今日ゆけくならを強ぬ酒あそまざる

續後撰依

わら心田菱ハ鴻ふ者く人もたまふみりてふけう鳴り

新多撰賀

もトハとけりあしりんを浮田菱の鳴り清後まのまれ

田菱鴻ハ重とよのり

藤原清

入道二

道助

左京人

夫ハ補

前右共

求賢与

母 推大僧

左大臣

入道一

求親王

師類

賢史

法師

權中納

言長方

信原彦

信朝臣

慈鎮

前太政

大臣

律師

拾遺雜春

新古今

同雜中

鏡古今別

同悲四

續拾遺春上

同冬

同雜秋

續十載格

凡雅夏

新十載上二

田子れ浦小慮り流くみりりれとさす乃煙互やそふえ
大中臣能宣

田子の浦小打せくみ連し白かた申しれ古根に雪や降つ
赤人

仲津川よきふうれや田子の浦れあふのも熾火焼まらる
越前

うらうらまき田子の浦波神いらてむれ別まらるれとも
元浦

あせしやまといらうの田子の浦根こみ波のまぬ日
後京極
抄改前
太政令
道因
法師

田子れ浦八風も乃やけき春の日し霞そ波みまらりけ
法師

田子れ登凡者を埋じしけ根の暮日一ふ冬まきんり
信実
朝臣

今又田子の浦波うらうらるそくくぬ日もまら秋の夕暮
中原
行実

拾へもくくぬ日もまら秋の夕暮
平齊時

田子れ浦乃深温もやうぬみ月ぬみ後なしけの煙入り
若原清
浦朝臣

田子の浦の波のりん交下依てくくぬ日まらくま受ふ
前大納言
朝臣

同雜中

同

新古今悲四

同雜上

少此のたあの浦うわ尼波まら煙もをれまぬ日
法印
正為

田子の浦の波しを求し我神小たせつん方れるまら悲
淡人
不知

若しよ田子れ浦波うまらで志をてふ名のりぬ日うら
静仁法
辨王

少乃乃はまらくこまみしす田子の浦乃深温凡煙をよ慮て
成茂
成茂

竹下

相摸

續拾遺格

風雅春下

同雜

是柄れ山れぬりともりわくれて一扱者う竹凡志之道
平長時

のりられ山れありの波とりて花の雪あび竹乃下道
前中納言
与相

ゆのさす小波れアやく是柄れ山りしきさあの下
石原
成茂

玉川

武蔵

玉川うらうら調布うくくまられ人れまらまやあ
淡人
不知

拾遺悲四

後撰秋下

新勅撰秋下

後撰拾遺秋下

後撰拾遺秋下

後撰拾遺秋下

御古今習大伴會

王業旅

拾遺賀

新勅撰賀

後撰拾遺賀

千載秋上

風指秋上

新後拾遺秋上

之野

同

後撰集より前書富田より

秋の五野の海と引町をひりり乃をそまろろひしき

原忠房朝臣

目とてそ秋風そ見所と康れ五野れゆゆに雲そまろり

信実

花満りのうふけし秋暮れ五野くすそりりと康なくなり

入道前太政大臣

かそ勢のうそよ海けり秋暮れ五野の海そ今日の引り

新院

る間浦

常陸

うそふのう神やのれるん常陸りるるの浦の沖つ白波

光俊

鷹尾山

遊江

うやうらうのれ山ハ玉穂最とく廻くもりろこのりし

匡房

舟向山

同

志賀郡

万葉集木綿屋舟の別書富田と申

夕しと舟向山と今日越てりれれ舟へ舟乗せしり

以上

玉緒山

遊江

浦まのくまろと山ふをむ踏の千とせそあろり所は乃敷也

不知

玉野魚

同

勅撰石川抄康福草富田と

ふくこれ草葉れあ根とくりて玉の京おけうみのけり

正三位家衡

玉井

同

涼いさふとせそり子て登入のれ玉の乃水れ松乃下陸

民部卿

玉川

同

の目もあん野ちの玉川秋越てえりる彼も月やとりり

俊成朝臣

化野の菰凡束るの秋り後ろこがれくあや玉川れとろ

同城守

少と康のあろむ秋よ秋みして月もえりる野ちのた玉川

太宰権

玉嶋

同

拾遺集

聖業卷二

新勅撰冬

同於

續後撰按

新十載

新拾遺秋下

新續古今秋二

同冬

同卷四

同新中

高嶋也ハ秋の中山拙めてく倦りと採よろしのなきく

淡人不知

道江てふふさ高嶋しきゆれこつろをまねとわりの里

同

さしぬやとおれ拙山ろととして氷も書もあうきをくれ

家隆

いづくあり我宿をらん高嶋ハウちの象よひ日々く志の

後人不知

高嶋ハハ地ねく象不者とくを今日やハ甲んをれ志く志

從三位家隆

いづくの志く志く高嶋のウちの象よひ日々く志の

為前朝臣

高嶋ハハ地ねく象不者とくを今日やハ甲んをれ志く志

増基法師

秋乃月山乃し津てく高嶋ハ見秋の浦に秋そまやけさ

求陽門院左大臣

吹おろそろく一れ書も高嶋のとおれ拙山雪ありにるし

幽提法師

つふらしをるうりく高嶋やこれの拙木の志けささひと

後三条八前太政大臣

谷上

多九条

拾遺集秋

月秋ハ田上河小橋たれも網代乃ひとれもかきり

清原元輔

詞花雜下

の一火残山の棲し世をとあくつれつ門出る里たり

俊賴

十載秋下

あしと麻ハ鳴極し好くみまゆれと涙も床ハ拙もそまひり

同

同雜中

ふふれやと山下田みだりまて回ふ付てもゆめく拙亦

同

新古今拾

後林下、芦ハ丸をれをらん、此ふらうつむ舟急くる

經信

後古今冬

母子の田上の川や氷さらん見おれ山ぬさし、さされたり

前左大臣

同

新後撰夏

新十載春

續後拾遺冬

新後拾遺雜秋

新後古今貫

同夏大嘗會考

詞花雜下

網代りやあらうきりり衣もれ田上川とこりおれおれ

りいり火の光もうとくけりけに多し田上川乃明のくす

衣もれ田上山川のきりきりみまうさゆとうむとまらきる

よとさびみりておれゆり衣もれの田上川よ千りり鳴る

いとすりり山の上ゆきて衣もれ田上川よこがれ月なり

衣代のたりのあそほく田上や秋の初めのあひあのは

多野村

つらむれ衣代のあそほく田上や秋の初めのあひあのは

島井

るみり島井の水もろくすけくうりりるれう年とつよけり

多胡入野

葛乃葉と吹たけ後みりりあれはあへの入野も朝りり

玉川

又あれを以て風うてみりりり野田れ玉川子島乃なり

陰奥小あそほく衣もれ玉川はたすりのよとさゆとてり

思りりりり野田れ川見後をいゆゆありて氷る月なり

みりぬを以て鑑まうとちのくの野田れ玉川流させり

武隈

りし時髪り屋志りんあくまの松と二を並にけり

茂原の松とみりりやけりさのんちり千年れ流おけりひて

りく程りのあけりりて茂原の松とよけりんちり人のため

茂原の松と二本と交ちりりりりりりりりりりりりりり

為家

光明寺

崇徳左

大臣

前大納言

為氏

国助

是法

法師

正二位

隆教

前中納言

匡房

不破郡

義濃

不破郡

上野

多胡入野

能目

法師

不知

順徳院

鴨祐夏

元吉

朝臣

石原

為顯

能宣

橋季通

同

同

同

同

同

同

同

同

同非語

詞花律二

新古今例

同雜上

新勅撰括

續千載雜下

新千載刊

新拾遺卷

新續古今恋上

五葉恋一

淺人の玉造江一し舟の音より居て祿志とくふれし

玉江

越前

杉津同名有

玉江あく芦州小松より分てこれと澄くうまれ定りし

玉江漕あも川舟より又て彼岸のありしよりの

夏舟の玉江は若とゆとふさむれ并れ鳥乃をやうま

夏舟の玉江は若れ若れしものうよくや松のあふ成らん

夏舟の玉江は若れ若れしものうよくや松のあふ成らん

夏舟の玉江は若れ若れしものうよくや松のあふ成らん

夏舟の玉江の芦れ短松ふみらうとて月夜にけし

村馬のうまむやふふりん玉江の若れしを待りし

能目

僧正

瑞鳥仲

朝臣

兼後

加賀左

出門

藤原

清正

圓元

八道

光行

大臣

九条右

大臣

常盤井

入道前

大政大

臣

源重之

同

不知

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

小町

新撰古今歌上

月影もあつとこためな白鳥乃玉にけのーふうー風うよく

備名氏
大臣

拾遺夏

多柘浦 磯入江 越中

射水郡 駿河四谷有

新古今歌上

多柘浦の夜所人もふぬいとりのーてゆえみぬ人れる

徳本
八尾

玉葉

とれの波よ回末もろき建のら夜咲たあのかつーのあや

慈圓

後拾遺春下

沖つ風吹とれ残の松うしおの夜さそしん多柘のうら夜

宗泰

同建春

この浦や江に藤花咲てうらうらうらふ波うまにわきえ

前美白
左大臣

新撰古今春下

ふゆをたかの浦人いしうやえ温もく満ぬ神ゆすすむ

前左兵
兼旨教
定

さ田山

石見

拾遺夏

まりやふ高田此山乃時きこのみりぬるー詳ふ所もそ

徳人
不知

さ田山

同 大和同名有

ふゆのりさるれ山乃ふるより成あつ神々妹ハらんゆと

さ田山

石見

後古今拾

ふゆのやまふもきてこわこきさる用山に月そのささふ

為氏

新撰拾遺春秋上

ふゆのりさるれ山乃ふるより成あつ神々妹ハらんゆと

後鳥
羽院

さ田山

尾上 峯山 浦 幡磨 又山之搦名ヤ

古今歌上

ふゆのりさるれ山乃ふるより成あつ神々妹ハらんゆと

五原敏
行朝臣

同雜上

ふゆのりさるれ山乃ふるより成あつ神々妹ハらんゆと

後人
不知

同

ふゆのりさるれ山乃ふるより成あつ神々妹ハらんゆと

れさ山

後葉夏

ふゆのりさるれ山乃ふるより成あつ神々妹ハらんゆと

五原
兼補

同秋下

ふゆのりさるれ山乃ふるより成あつ神々妹ハらんゆと

徳人
不知

同恋二

ふゆのりさるれ山乃ふるより成あつ神々妹ハらんゆと

同

同四

高砂の松成みよりとがーるりき下の松葉とらぬわら

同

高砂の松とりのひげくまをそらうらぬまきうしれまん

同五

高砂の妻はさまを高砂の松にへた小松ぞとのまうん

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

拾遺抄

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同六

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同七

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同

高砂の松は高砂よかきしきし妻をま時たきにこそあはれ

同五

つりあんとは侍り

ふ砂とさくまりひる雪すし夏上此うへまわす意しき

源相方

同又

ふ砂乃れのくみあくる味ゆれし括けし仲清志しなと

賀茂成保

同恋一

ふ砂のあれへののこひの香を耳り枝のけておんさくらん

前中納言匡房

新古今秋上

ふ砂れ枝のへれ松下吹風れ香よのこややさしく後れへる

左京大夫元補

同賀

吹風れ冬こそみみ縁さ砂れ冬上の松よ秋こそまじり

左原季能

新勅撰春上

ふ砂の松と香うらるる人し枝ゆ葉をあまれよの月

寂蓮

同

ふ砂の枝の苞のあやうきゆれ色縁の綿ぞとみみぬ

式子内親王

同春二

海ふくも志こもまじりふ砂の冬上の松父のりこり

前美白

同

ふ砂乃ふりとも里をさしあふ冬上の松雪とようみま

左原

同

ふ砂の冬上れ花ふ春くれて流る松たまりひりり

後京極

同恋二

春風れ新吹まじりふ砂の冬上ふさゆり花れ

長方

新勅撰春二

秘向しと注しりいふ高砂れ松もいやふも冬をるま

雅臣

後撰撰春下

ふ砂乃あれよふゆら松りものつれもつれり人と恋つ

源有家朝臣

同秋上

立之り松こそゆりんふ砂のあれへれ松りりゆらなむと

祝部成茂

同

ふ砂乃冬上乃り後やそしりひすそのく原小原を鳴る心

右原清輔朝臣

後古今春上

高砂乃外中も松をまるとれとつりゆあまに原をなくる心

定家

同夏一

波向うり又日うらゆる高砂乃松れりりい處海さるりり

順徳院

同秋下

松う後さしりりくゆりぬふ砂乃花の人のをれ白面ハを

中勢親王

同恋四

月うけに原乃言すゆ高砂れ枝の苞几露の花やらぬらん

平兼盛

同難下

ふ砂乃山ハ山鳥毛にゆりりもろあれふれとなり冬こそふん

為家

ゆと流るれ枝をとなぬふ砂乃冬上ふたてる松いりり

能目法師

優待貴春上

同

ゆくゆくは吹やみさふさ砂の松城跡してゆくゆくも

順徳院

同秋上

左海にや山うりすびさ砂に丸上凡さきく思もさうりうん

雅正

同春冬

さ砂の松の松を救きよて月うり交ゆささうりのさ

成兵

同春一

やふてき寄凡うと日、さ砂の松城友とてゆきゆりゆ

前大納言

同兼上

さ砂に丸上り松凡々町あゆりゆゆせぬさうりやぬこも

八指一不親王性助

新後春上

さ砂凡松のりひなりとれと町も表おけまの悉人ふて

前参詩定

同春二

さ砂乃丸上凡處たらんや松ゆりゆり松のさうり

式部院

同

山ゆきしーして少け高砂のれのゆき今ゆきるるる

山階入道五大

同冬

春風い吹くもみしてゆりさあの松ハ接ふさうゆり

平忠成朝臣

玉葉

さうりゆきゆきも風をいまじ連雪ふあもゆりさ砂凡松

前大僧正道瑜中務宗子親

さ砂の丸上凡ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

玉葉兼三

松の吹りゆきの音もさ砂凡浦ちりくあゆ松のゆふくれ

権少借都嚴敬

鏡千載春上

年月凡ゆきゆきも志り兼ゆり所もゆりゆりゆりゆり

一条内大臣

同

思ゆゆきも思ゆゆきも思ゆゆきも思ゆゆきも思ゆゆきも

順徳院

同春下

さ砂乃丸上凡松乃りさ處凡ゆきゆきゆきゆきゆきゆき

若原信実

同秋上

沖津の波ふくもゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

隆信朝臣

同

高砂の丸上の藤をつれもゆきゆきゆきゆきゆきゆき

法印定為

同

杖とらる藤凡松乃りさ砂凡松乃りさ砂凡松乃りさ砂

行念法師

同

ゆきゆきの声もゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

万秋院

同冬

高砂乃丸上乃風吹がゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

前大納言言与世

後後拾遺以下

さ砂の松よりなるぬえうれやわすし一丸上此松れ葉ふ前僧正道性

同雜上

汽うし老のへらりり高砂の松や我めのしとを明こうん夏之

風指春下

さ砂に松れこころもまうぬえうれ丸上此松れ葉ふ後成女

後十載春上

高砂の松のふるみ咲えやおれつよんてれまともゆり近物右大臣道詞

同春下

さ砂の松に縁をつれなくしてれりく此松のえううう前大納言為非

新拾遺春上

さ砂に松れへのむえうるをえうううさりり山橋うれ為氏

同秋下

さ砂に松のへの月は時廉れと息をえれふまめゆのそ前大納言深健

同

さ砂に松を友ともりくう海て狂妻うひうし席を鳴りり入道二品親王

同雜中

さ砂に丸上うしふりり丸上や世世はくを栖うる前僧正実甲

新後拾遺春上

う建まう春し雲井うしさ砂の霞れうく丸松の一し不前中納言定家

同賀

さ砂に丸上はたてれ松りしのもうやぬへるもり千年修二条

同春下

一ハもまうと深め人ぬさ砂の松のこころりしりりりり大臣

同春下

さ砂の毛上の花れうそめうう清めぬ松の書とかしてれ入道一人親王

新續古今秋上

秋風しよ毎小吹ぬさ砂の丸上此松のらりりくもれし中納言家持

同秋下

高砂に松やつれなる丸上りをれ連杖さうりく廉れ界定家

同

さ砂に松れへの月うし秋交て松う後道、席をりりり前大納言隆直

同雜上

されやうぬるの揚しさ砂に松取友とわつれりりり直明王

同中

さ砂に松れうくう小成ぬとを燈てふ海や別てちうう保守法親王

同

つれりりてよらひを包ぬさ砂の松も我身と心人小き非親法師

同下

こぬよそくしりりりりりり高砂の廉れ書うし丸松をりり按察使賢平

さ雪

幡磨

後撰集之昔之前書當因

多摩雜二

物ふとめてもこゆさ雪のめ下の管やを折屋さゆん法人不知

新千載秋上

新拾遺神祇

新後拾遺神祇

新撰一古今雜中

同神祇

同

同

同

玉つ海やせりく月り新まゝふ物く流波のあきなりふ
源親長

多の一日さきとふれ玉流海よりゆも越し神心りく
因直

打の波はあてもりりと思ふあまれをりけし玉つ海ひめ
信実
朝臣

玉つ海へ江漕せりついでか又たひうひぬ神やうくらん
法阿

我色も三代にけりるをてか所海よりひも神れめくこを
権大僧
都光尋
鹿茂院
入道前
太政官
後光明
照元美
白前右
大臣

我も三代人も三代と別き所くともあそ琢く玉川し海
大

とせりふ志とめ人やといさあさり海八し海より新時
大

その言を玉川海乃所新しとらん
大

る野 山 峯

紀伊

伊都郡 金剛峯寺

静蓮法師の書室よ海切りさうあれふうふれり

みしはれいぬて所りりきう

流りこれあひあうりりこふもいぬこま乃いふ

冬は後へるは親王さ野ふあもてゆりりり

とくこねひきう

少あ言い若のこりう埋ひる三色の佛凡日也追と

追と成二世代佛乃物日さある雪よりもつと成清う

挽とさ野の山よりまら種やあ西凡志こりりもまの凡

る野山奥止人凡ひつすこさのり小春汗月そみて海し

ひりりあふ野の山のぬりまら小暖をすある月りけ

かふるさ野の春凡月ととて流る所流凡かとも志り流連

同

新勅撰雜中

同

同

同

同尺数

千載雜中

崇徳院

仁和寺

後入道

法親王

電性

良蓮

成順

正三位

知家

源氏親

朝臣

漢古今神祇

我のくもよも湯米一さず山たりんははのびり凡何

高野山
神任言

同夏傷

義福門院のくまのてぬる燈山小畑をり凡何

後成

とくれのくふれらう想らん高野凡山れきふ乃所登寺

五陽門院りくんのてさ野にれさめまのまの湯を

くわのくわのふゆつらて神よりみちのちりりくもたれん

同

疾のくくもにけりふ墨深の神れにりもあるまをれ

源拾遺雜歌

つらり高野のれくれ志くれつ教しをれもれく凡何

同

くくろうん教れをれ也ひ三事高野をいふれをうりさりり

同

高野山院をまの鐘凡者もくくよの教れく急ありのん

新後雜難下

えと又榮りあてや高野山をれ燈をともうまらうん

王兼賢

あふも高野山乃志乃室のらんりたの流のりあふん

後成

清めくまの流の灯くけても高野山乃あくれをそまら

漢十載尺数

高野山所登の辺に西にらんふ乃をその凡りみくまら

性正
道順

同

高野山茶室のうへは高野山をくくるとして

夜花扱得くも凡りあはれ白くくけて今日も月のめり

同夏傷

けり高野山乃れ海にす高野山をいふ凡果と山人を

風推雜中

忘てもはやまのうん高野山乃高野山をくれ玉川にれあ

弘法
大師

高野山小畑をりて三銘の記をきて

同

これうあめ唐舟乃りりくもてまらて捕をたれひく不

新十載尺数

鐘凡者をゆくとすけく高野山をいふ凡の凡の凡のそく

新讀古今尺数

高野山をれ燈を榮りてあふくもたう一月やをびりん

同

高野山字をの愛とまぬくしるのりのけまをまらの嵐小

元可
法師

僧三
史縁

中務つ
宗子親

阿一
上人

二品親
王常法

法印
兼基

玉葉雜五

鷹鴻

紀伊

考之阿書當田

我らしてぬよちのちん人りくきりしてより林鳥鳴の石

高升上人

爪推雜五

至河

紀伊

三ひくくみやまのうし換人の高野のむく此玉川のま

弘法大師

漢古今春下

田中井戸

同

同秋下

暖にうる高代らういひみして田中乃井戸此山吹凡鹿

待賢門院堀川

換七蓋秋上

白倉凡かくて凡て杯打なひき田中乃井戸秋風う吹

入道前太政大臣

同春上

玉鴻

河里

肥前

松浦郡

爪推秋上

悔りくやさうつれらんいひ鴻ま玉鴻川此水のうくみお

定家

新拾遺春上

玉鴻乃あいの川上もさう波ハうりそりすめり夕くれのま

正三位知家

新漢古今春上

凡そ一處や川勢凡波凡きりして寢よういふ春乃月乃

順徳院

同旅

松浦山ゆふさしくれい玉鴻凡里のほくさんいづれ

彈正平忠房親王

後撰雜一

多波礼鴻

肥後

同別

凡められとあこ名を立ぬぬれ鴻家白波とゆれ夜よさそ

うきつるの朝臣

ふりーれりうごいそ思たくれ鴻波のゆれ夜費よさう流

不知

新後拾遺神祇

橋小戸

日向

橋の小戸此隘をよあうりりくきりし林そあの前

鎌守

後拾遺長傷

玉無里

未勘

うま人のくれうとまけや悉とり我後者や或なさるや

和泉式部

瀬山 峯

同

王兼按

ふりこまを巻き——瀬山をふりこみ此山よゆりて

大江 瀬山

玉出岸

同

新治遺神祇社

あつたあつたをよかりしはるる末はあつたのまじり

津守 国平

あつたあつたをよかりしはるる末はあつたのまじり

玉出岸

同

あつたあつたをよかりしはるる末はあつたのまじり

あつたあつたをよかりしはるる末はあつたのまじり

あつたあつたをよかりしはるる末はあつたのまじり

園神

山城

とまふふふのぬい縫と何のそれは——祢途をきくわらへ

少将 内侍

袖振山

大和

と。あつたの袖振山は三つ遠く久き代りり思ひそつて

人磨

と。あつたの袖振山は三つ遠く久き代りり思ひそつて

前中納言 匡房

と。あつたの袖振山は三つ遠く久き代りり思ひそつて

茶調 為氏

あつたの袖振山は三つ遠く久き代りり思ひそつて

後鳥羽院

あつたの袖振山は三つ遠く久き代りり思ひそつて

家隆

あつたの袖振山は三つ遠く久き代りり思ひそつて

五原清 浦朝臣

あつたの袖振山は三つ遠く久き代りり思ひそつて

定家

あつたの袖振山は三つ遠く久き代りり思ひそつて

津守 国平

あつたの袖振山は三つ遠く久き代りり思ひそつて

津守 国平

新古今春上

是れ又とうまのこをけりふくと天子の神振山此馬の隈

後京師 磯政前 臣 大

書乃直野

信濃

後拾遺雜二

東風此をけりし即ちをまるとも相坂をこそしとを思

相模

同雜五

志竹のりら香息ふもたわし祿を我らしさ本も今を新ん

承正系

金葉抄

こくさよの枝やしつこは海流りおる香衣し繁葉志まら

師賢

新古今集

まうし今我も明ぬ香衣やぬせややまもひひりうとるも

藤原補 平明臣

同戀一

るの原を伏やみせれしと寄よのまをみとて逢ぬ志也

坂上 是則

袖渡

陰真

新後拾遺卷一

みちれくの袖は渡れ渡川む乃えりしりりりりりりりりり

相模

袖浦

出羽

拾遺恋五

志こゆり涙のしる神の浦し志なることも枯う志ぬへん

淡人

新古今部上

神は浦はなと吹く風を秋も小志の上まで涼しうらら

中務

新初撰恋四

うしとふふれぬら神浦は志中もみやみりら

前美白

同

かし保ぬ祭乃の原もは極されて我しゆあく神浦は

侍従 具母

後撰撰恋二

干保ぬの原のの原も小志たまそ我しゆあく神浦は

皇太后 臣 大夫 俊成

同

きとこゆり涙を海を渡れとみるのまのりら袖浦り

藤原 通盛

讀古今恋一

今しうらや人小むとにまらぬりてもしぬ神浦風

茶鏡 作保 常盛井

後拾遺恋五

ふあしし神浦はりりらりらりらりらりらりらりらり

入道 大政大

新後撰恋一

神は浦は渡へ江のこたつとくらを程やうえふよみ

祝部 成茂

同恋三

新古今恋一

さみりらに極しててもあふんはなを志うたあく神浦は

祝部 成賢

後撰撰恋

後千載恋一

同恋二

同

同

同恋四

新千載秋下

同恋二

新拾遺條

同恋二

新後拾遺條上

同恋一

新後古今下

同二

同四

同五

同

同

同難上

後拾遺恋一

後拾遺秋上

汽よとるもくろく...のす乃のりみるを...此神乃浦波
三条入
有内大

のす衣乃れろふ神の浦...も思るぬ...此神乃浦波
前奏
雅有

おぼくもみらめし...て物...此神乃浦波
与道
朝臣

くらみ...神浦波...ふ人とみ...此神乃浦波
花三位
朝臣

年月...神乃浦波
龜山院

康熾...神乃浦波
五原
宗泰

ちり...神乃浦波
權大納言
公忠

此...神乃浦波
法印
源重

あ...神乃浦波
為非

春...神乃浦波
伊勢

み...神乃浦波
淡人

晩...神乃浦波
正三位
知家

悲...神乃浦波
同院
政左
大臣

夏...神乃浦波
源家長
朝臣

互...神乃浦波
按察使
資明

乃...神乃浦波
源正平
忠房朝臣

あ...神乃浦波
進子
内親王

あ...神乃浦波
一条前
大臣
大臣

袖師浦 出云

夜...神師浦...
五原
因房

あ...神師浦...
源信
朝臣

新後撰卷四

後千載拾

同卷一

同

新千載卷一

新拾遺卷二

新後撰卷二

夜こゆらうて代倭ハうふ拙うとてそ独神をりのれまる
推宗 臣宗

涙うふ神ハ倭とたよりて月とハ神ハれや
国助

あひはくつしほそいしくびのこさしくし神の倭や
後保主 院少将 内侍

わいそ神倭よりうはれ上るまらしくむはく神
中臣 臣

若くはま涙ハ神ハ倭ゆもこそるそ人のよひへるる
津守 国直

いふらん唐弘のゆるりもあふぬるりあましく神ハ倭も
為定

こひ倭ハ神倭ハはましくいよくよき神のつすつり
前大納言 忠良

後千載卷一

新後撰卷二

綴 原 里

山城

後撰

夏月ハ所くまの原の秋原よとそり下里をけるなる
侍従 行末

やしく又所くまの甲よりまらけてまらぬまらぬ
為世

月輪

お輪といふふまらうるそ元補並慶助とせう

庭のなり花とてあそひてよめる

あはれ警とけぬまの雨おたりひもりのぬ夜そらち
大中臣 能宣

あまの日本種のをみかへゆへをきふ月輪ふくへる
祭主 補説

小物文は海さる海いぬりうき月輪ちん花のゆり

あまの日本種のをみかへゆへをきふ月輪ふくへる

清原 元補

新古今卷下

懷古今春下

傳信み月輪るん花のゆきも可憐ゆけり
山嶽あくまてりり成るけり花をたれ包くも風吹ぬ世よ

平兼盛

舟林

傳信み月輪るん花のゆきも可憐ゆけり

てしえゆりまる

るけり花のゆきも可憐ゆけり

左大臣

津守

仲津浦宮神

傍津

しんくは津守の沖とあはれいそ乃松ぬをりのなり

源氏親

津代しん津守の浦に文井してあはれいそ乃松ぬをりのなり

大納言

れめつこぬよ津守の浦に文井してあはれいそ乃松ぬをりのなり

平氏度

懷後撰

しんくは津守の浦に文井してあはれいそ乃松ぬをりのなり

源氏親

懷古今秋下

こぬ人と待夜津の浦に文井してあはれいそ乃松ぬをりのなり

源氏親

りきみ津守の浦に文井してあはれいそ乃松ぬをりのなり

源氏親

同雅下

文井せし年とつとりの浦に文井してあはれいそ乃松ぬをりのなり

源氏親

同賀

流ふくしとつとりの浦に文井してあはれいそ乃松ぬをりのなり

源氏親

懷古今春下

しんくは津守の浦に文井してあはれいそ乃松ぬをりのなり

源氏親

同雅下

年とりの思ひつとりの浦に文井してあはれいそ乃松ぬをりのなり

源氏親

同神祇

しんくは津守の浦に文井してあはれいそ乃松ぬをりのなり

源氏親

源氏親

千載神祇

月讀 神社

伊勢

新古今神祇

月讀凡祇三照而しありて言ハくは字世々うれしきやを

大中臣 為定朝臣

續後撰神祇

山々のなりて勢ハる祇川を井より流れてけり月讀の盡

西園寺 入道前太政大臣

川推神祇

つらつらくもまはさよと照うる名にりりる月よりの社

同

ととやをてりすと祇川懸らぬも今も愛さ月よりの祇

後宇 多院

後撰雜別

鶴郡

甲斐

あつたを鶴郡小ありては祇定りて世のこころひもなく

伊勢

新千載雜下

あつたを余りひりて我もゆく鶴の郡よあ代もうはなり

忠半

新拾遺貫

鶴景

相摸

鶴の景よるま松と吹り流れて井よりひく方代ハよ

左兵衛 督基氏

統夜

根岑山真藤田井

常陸

筑後郡

同大分所内

統夜振ハ山面はるし流しあまともあつた祇川よす祇を

同

統夜の山峯の雲よる流しあまともあつた祇川よす祇を

後撰卷二

今もてあつた流しあまともあつた祇川よす祇を

不知

同

人持よりの雲よる流しあまともあつた祇川よす祇を

同卷三

つくとあつた流しあまともあつた祇川よす祇を

陽成院

同雜

限りくあつた流しあまともあつた祇川よす祇を

不知

拾遺卷一

言よる人れはつくとあつた祇川よす祇を

同

詞花

あつた白雲よる流しあまともあつた祇川よす祇を

能因 法師

同雜下

片く流山流しあまともあつた祇川よす祇を

大皇 官肥後

新古今卷一

つく流山よる流しあまともあつた祇川よす祇を

源重之

新古今恋一

秋月くぬ人いじつつくし山志とふむとん道ふも月を

能宣、朝臣

新勅撰恋一

月々山志山志山志山志山志山志山志山志山志山志山志

正三位

同雜四

くそ小枝と心れとせし秋波根乃春花白雲をふみゆくや

能回、後師

後古今恋上

秋く波根の山鳥のたのま手鏡つけておとら秋乃月の月

家隆

同恋一

秋くし山志山志山志山志山志山志山志山志山志山志

前内大、皇基

後拾遺春下

秋くし秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

持從、雅有

同恋一

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

正三位、知家

續千載恋一

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

中内入、直正、大

同雜上

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

法眼、兼譽

續後拾遺春下

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

前大納言、為世

風雅秋下

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

前内、直正、大

新名書雜中

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

前大納言、為世

同

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

前大納言、為世

新後拾遺恋一

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

僧正、桓覺

新古今恋上

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

從三位、家隆

同雜上

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

前大納言、為世

同雜上

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

前大納言、為世

拾遺恋五

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

前大納言、為世

同雜恋

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

前大納言、為世

同雜恋

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

前大納言、為世

後拾遺恋

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

前大納言、為世

後拾遺恋

くそくそ秋の志秋の陽やこれの川流て湖と秋所も秋らん

前大納言、為世

後拾遺卷一

道江ありまゝに成みくりはゆる人若の代はくま江凡成

同雜四

不毒つくまの祓りるまゝのひくひ人のうすいへつゝ

新拾遺卷

つくまのせしめ深いまゝのまゝにして久みおよりり

新後拾遺卷

みりぬを言ふはく海凡のやめまの末はつしとそふ

丹土埴

同

新拾遺卷

しれくと髪をひきよとこぬ月かの場は雲の約也

統摩湯

信濃

筑前郡

けりまの湯と見ゆりて

けりまの湯と見ゆりて

壺碑

陸奥

こちのくは作して一尺ぬり書けりて壺碑

敷賀

越前

我よりこ敷賀れ越りてゆり乃山も石ともありき

敷山

丹波

金葉賀

音さきしるく凡山の打もてたのくま代と成せぬき

敷嵩

隅波

拾遺物名

つゝむの不定とせしけりやむのれつゝんれとむりやむり

津田細江

播磨

八雲抄家抵因分疎堀ま手書因

續古今

内吹しはやくとびと待りとう津田細江は浦りけり

みりぬ津田細江のこをけりきみしぬと海に志しんわ

被滝

肥後

貞盛 法叶

る小支作くは流とす三九の山川のなりりまをまきる
不大人

[Faint bleed-through text from the reverse side]

新古今集下

眠の杜れトおころ目そくまうぬへつとれ
俊成

[Faint bleed-through text]

[Faint bleed-through text]

[Faint bleed-through text]

類千載冬

雙岳

山城

ありこもれいとつとほとみ所る
前大僧 正神助

えくすい愛の思の袖糸杖
後宇 多院

松のまや日くむの思れ禁る
入道一 孫規王 求助

並池
同

同くそきこと愛ハ池れよう
後人 不知

鳴流
同

鳴流や西代川とよこさでん
皇太后 宮大夫 俊成 右近大 将道經

為りしみのうくむの流を
同

猶小河
同

新古今集下
心そきすも日く川小川川
八代 女王

新勅撰

ゆふもくひり乃を川に及まを所後不夏れさるる也り

後拾遺卷三

年包ひつりひの小川み所後して初志世とむむ世とむ

中川

同

千載恋四

ひりすを後てぬうしたのこもん後まうゆを中川乃水

後拾遺卷二

つらな後をさしぬ中川よあふ所乃後れとくさりゆえ

同恋五

ひりあもひりゆく水とをえへてまよりゆき中河乃者

同恋五

ひちもさり後とこをさのまらま後とるれと中川の氷

同三

つらふより神よりゆらま後てれ後りもさるぬ中川乃水

同二

つらふらん愛中河に後まきまひすあ後れはさても後ま

同四

ひりし又涙ハ潤とさるるにけりを後とるぬ中川の氷

同

つらふらん愛中河に後まきまひすあ後れはさても後ま

同五

つらふらん愛中河に後まきまひすあ後れはさても後ま

同

つらふらん愛中河に後まきまひすあ後れはさても後ま

後拾遺卷一

つらふらん愛中河に後まきまひすあ後れはさても後ま

同

つらふらん愛中河に後まきまひすあ後れはさても後ま

同

つらふらん愛中河に後まきまひすあ後れはさても後ま

同

つらふらん愛中河に後まきまひすあ後れはさても後ま

新十載恋三

つらふらん愛中河に後まきまひすあ後れはさても後ま

同恋五

つらふらん愛中河に後まきまひすあ後れはさても後ま

同哀傷

つらふらん愛中河に後まきまひすあ後れはさても後ま

新後拾遺卷四

つらふらん愛中河に後まきまひすあ後れはさても後ま

つらふらん愛中河に後まきまひすあ後れはさても後ま

家隆
光相
道
前政
大臣
臣

式部
金

原
臣

原
俊

太
上
大皇

前
大
納
言
俊
光

女
原
行
房

平
時
見

三
位

法
師

唯
教
法
師

天
陽
門
院
少
將

中
宮

前
美
白
左
大
臣

民
部
卿
為
春

安
門
少
宰

權
大
納
言
実
夏

實
人

後
德
大
寺
左
大
臣

平
貞
秀

新後拾遺卷四

中川の浅き處りの下よりけてかきも遊瀬と称しりかき

ついでんり中川のあさき瀬よ流ふせよんも縁流與と

内後より我中川乃大ぬゆし作并ふよゆ瀬や遊せするん

奈良 郡山古の 大和

古今春下 心と散りしかられ部よりも久しううを流し候はる

同非 人ゆくすまをいひてこりのせおられ致りまもやら

後撰卷一 拾遺卷四 名しよくまられ致りてとをし事れまことなぬり

同非一 百つた奈良の教乃ゆめいりるれよるこもあめなり

同前 独り事よりうらん古里乃ゆりのゆひてか一人もな

と流りて懐ゆるま

拾遺別 天光や流りけりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

詞花春

新勅撰 百の月爰の太刀とさげしきやゆりゆりゆりゆりゆり

同非四 百よりしなれ致れ黒末もて流ゆる有るま速とあぬりも

同非三 百はやく代れ花に匂くれてゆりの教にうつろひひり

同非二 八へ白ふまられもやこよ年ありてあぬ山路乃流し物也

同 強嘆けりのみやこと思はともしゆくも思はや包れ白

同 也包白小流とるり流るうてみぬよと志こよりゆり

同非二 世中をちけりさ相と合ふらる奈良の文あのをうろふ

同非一 百は奈良の部乃文ゆらあの時こゆりゆりゆり

新十載身 流緩川流き流ふしつをるるりゆりゆりゆりゆりゆり

白左

不知

前大納言

法直

法師

心門の

二茶

不知

大捕

伊勢

人磨

伊勢

大捕

聖武

天皇

家隆

權僧正

圓師

法下

公義

前中納言

正非選

新十載卷二

同雜上

伍保こてなるの山向ふとく幣を殊よりのみんまじしる

聖成天皇

同雜上

林其月明る路をけりし山流しして日く乃まこふ所を言れ

後醍醐天皇

非さひてゆく世後とぬるつや激りし山のもの日

松原元

後醍醐中

那良志。山世。大和

大和

拾遺雜夏

次ぬとけりし山の乃極を長深くをみるらりしと思へ

不知

同卷三

るつれなりし山を八時鳥ししてはてやうとまの山にま

大伴

新勅雜夏

我勝こをけりし山をのふ子鳥まふ山後世との文ぬ時

赤人

同冬

杯なりし山を八時鳥ししてはてやうとまの山にま

天王

鏡下載夏

お鳴やあさやとわこを埋てけりし山の思ふ是書所もま

権中洲
言長方

新勅古今以下

鳴りふりし山の思ふ是書所もま

法皇
後九条
前内大

夏美河

大和

新古今冬

右をけりし山を八時鳥ししてはてやうとまの山にま

湯原王

優古今雜下

文りし山を八時鳥ししてはてやうとまの山にま

中原
行突

新勅雜冬

月つと川河を縁てあやけう小山のけきく鴨うたり

院少製

玉乘雜二

春もけりし山を八時鳥ししてはてやうとまの山にま

西音
法師

優十載冬

山のやあつと乃川よ鴨うとれの山にま

權大納
言定房

同雜上

此は其其の川乃夕きよ山りけ涼しとせしれ

惟宗
忠宗

優後拾遺夏

水つとれ夏見れ川れきりして山りけとさみぬの山

夏白太
政大臣

同冬

乃つと川あゆむ山に交る其の山りけとさみぬの山

春原
重隆

同雜上

日敷ゆらまつと乃川れさみぬの山りけとさみぬの山

淡人
不知

風雜冬

風きこ山りけなぬまつと海流み其のせけり日ま

五原
忠朝臣

拾遺雜別

同物名 町島孫くくなりくはくもさけも草乃捲う春のつらきう 伊勢

同 秋波つきまうのふ乃をそそけく湖の舟乃定おくれい 三好

同 津比まは秋波つきまふ池田さるのあうも巻くよ思分孫 同

同 秋波浮波とあへれいあふのしあけさくさくみを成し 忠見

同 秋波江れ芦乃のあけの交わらるる津曲りひの橋くわら巻 惠慶

同 老なりてのしあけさく思ふあもいし秋波の浦う燈を 淡人

同 ありあけのしあけさく思ふあもいし秋波の浦う燈を 不知

同 津園の津江凡ゆりく思ふあもいし秋波の浦う燈を 同

同 津園の津波つきまふ池田さるのあうも巻くよ思分孫 同

同 秋波人あ火焼やすけくれととれり妻とくと孫らるれ 神本

同 人としく林川てふ津波のあふるるあふるるあふるるあふるる 人唐

同 秋波浮浦吹風ふ波乃てを此れくひ芦のみしと分しとと 能因

同 此までれら海りしきも秋波江乃芦乃あれれ白雪 不知

同 秋波浮洲のしあけさく思ふあもいし秋波の浦う燈を 相模

同 余りし今波とらひ津園の秋波津江のあけくれととれ 大江

同 秋波つきまうのふ乃をそそけく湖の舟乃定おくれい 赤言

同 秋波つきまうのふ乃をそそけく湖の舟乃定おくれい 源信宗

同 秋波つきまうのふ乃をそそけく湖の舟乃定おくれい 伊勢

同 秋波つきまうのふ乃をそそけく湖の舟乃定おくれい 大浦

同 秋波つきまうのふ乃をそそけく湖の舟乃定おくれい 大江

同 秋波つきまうのふ乃をそそけく湖の舟乃定おくれい 赤津

同 秋波つきまうのふ乃をそそけく湖の舟乃定おくれい 遊女

同 秋波つきまうのふ乃をそそけく湖の舟乃定おくれい 宮木

伊勢

三好

同

忠見

惠慶

淡人

不知

同

同

神本

人唐

能因

不知

相模

大江

赤言

源信宗

伊勢

大浦

大江

赤津

遊女

宮木

茶鏡

金葉雜上

同雜下

詞花夏

同雜上

同

千載春下

同冬

同

同旅

同恋一

同

江のりまろしひまてきふしりそ秘波の事しそ急ぎ計す

賀茂 成助

秘波江のありの急海の波をいひもゆりぬ舟出そそす

六条右 大五

ありぬそ秘波江のみにてしむぬや吹のまき流るる

藤志季

ひんそ江の波さめしすをゆく秘を握り若しそ行方候

大窪口 行宗

秘波江のりすお者り月をいひ我め一もまのまき重なる

左京大 夫外補

ひるま我められせば園のひんそひよ級すもろるりぬ

季通 朝臣

高橋乃ひんそめりりりくくと明は濠小舟鳥鳴り

賀茂 成保

秘波江の江をめぐれり鴨の玉をた舟よ浮孫すそそ

左京大 夫外補

文事しあつきの拙をうきかて秘波江浦ををりるる

能因 法所

秘波江のよ埋とけく玉拍りくくれてよ小人を三す

藤波 朝臣

秘波江のりすくも秘波江のりすくも秘波江のりすくも

藤原

同雜上

新古今春上

同

同秋上

同下

同冬

同

同哀傷

同旅

同

秘波江のりすくも秘波江のりすくも秘波江のりすくも

藤原

ひんそ江の波さめしすをゆく秘を握り若しそ行方候

賀茂 成保

高橋乃ひんそめりりりくくと明は濠小舟鳥鳴り

賀茂 成保

秘波江の江をめぐれり鴨の玉をた舟よ浮孫すそそ

左京大 夫外補

文事しあつきの拙をうきかて秘波江浦ををりるる

能因 法所

秘波江のよ埋とけく玉拍りくくれてよ小人を三す

藤波 朝臣

秘波江のりすくも秘波江のりすくも秘波江のりすくも

藤原

ひんそ江の波さめしすをゆく秘を握り若しそ行方候

賀茂 成保

高橋乃ひんそめりりりくくと明は濠小舟鳥鳴り

賀茂 成保

秘波江の江をめぐれり鴨の玉をた舟よ浮孫すそそ

左京大 夫外補

文事しあつきの拙をうきかて秘波江浦ををりるる

能因 法所

秘波江のよ埋とけく玉拍りくくれてよ小人を三す

藤波 朝臣

新古今集一

我三よまぬりりる歌成成り一此まのやれにふりりるも 小弁

同 種及人りり成はあり朽まてんを重なるふ力を盡し所く 磯政大臣

同 種及浮遊のよりされのいたのりらしくかけし群の恨心 俊恵法師

同 種及女の衣下としてるて多くの一火の煙さぬ日そなき 夏之

同 仲津川よるれ吹り一おるうのりて暁のりてぬうよすりり 權中納言

同 同 種及人りり成はあり朽まてんを重なるふ力を盡し所く 磯政大臣

同 種及女の衣下としてるて多くの一火の煙さぬ日そなき 夏之

同 仲津川よるれ吹り一おるうのりて暁のりてぬうよすりり 權中納言

同 種及人りり成はあり朽まてんを重なるふ力を盡し所く 磯政大臣

同 種及女の衣下としてるて多くの一火の煙さぬ日そなき 夏之

同 仲津川よるれ吹り一おるうのりて暁のりてぬうよすりり 權中納言

同 種及人りり成はあり朽まてんを重なるふ力を盡し所く 磯政大臣

同 種及女の衣下としてるて多くの一火の煙さぬ日そなき 夏之

同 仲津川よるれ吹り一おるうのりて暁のりてぬうよすりり 權中納言

同 種及人りり成はあり朽まてんを重なるふ力を盡し所く 磯政大臣

同 種及女の衣下としてるて多くの一火の煙さぬ日そなき 夏之

同 仲津川よるれ吹り一おるうのりて暁のりてぬうよすりり 權中納言

同 種及人りり成はあり朽まてんを重なるふ力を盡し所く 磯政大臣

同 種及女の衣下としてるて多くの一火の煙さぬ日そなき 夏之

同 仲津川よるれ吹り一おるうのりて暁のりてぬうよすりり 權中納言

同 種及人りり成はあり朽まてんを重なるふ力を盡し所く 磯政大臣

同 種及女の衣下としてるて多くの一火の煙さぬ日そなき 夏之

同 仲津川よるれ吹り一おるうのりて暁のりてぬうよすりり 權中納言

同卷一

秘伝りくめし此下ひとひたてちや極妙方也

慶司

同卷一

りんて浮浦しをに立波のしそ小支代くこひねはうん

鎌倉ヤ

同

也ひやれ取きてし秘伝成のし此ううものりしく世うせ

原重之

同

秘伝江代芳舟小秘の秘ううをううりけと世城の要うん

前内大臣家長

同五

秘伝忠のあし火代極とここもをゆし毎にゆとる南

後原光臣

同難

細子いりとり小舟や入りは秘伝のし此浦りてする

權中納言国信

同

あううに秘伝入江りりるあううへとてあふ舟人

平長時

同旅

秘伝く浪漕せくこれ秘さもち生揚れきよむうたさひく

淡人不知

象一石今春上

ひめくむ人のためとやうすひく秘伝のし此乃むの秘

淡鳥羽

同

秘伝江代端下れ方の霞じらんあうう小支守海人の渙火

順徳院

同夏

津田の秘伝八甲の夕涼のあううのし此ゆいよは思うふく

信定

同

ひんて紅や梨満端ハリとみしてあううの秘伝よけの朝霧

後鳥羽院

同

ひんて人のし火燧やおもり骨の埋し浦をを煙やりり

守寛法親王

同神折

りんてはる冬霧せし霞おれや平路のまうにあれる白雪

系隆

同旅

押てるや秘伝をこて打るひく菓りの山とをふしけろ非

淡人不知

同恋一

ひんてつきひさしうおれ秘伝けらちやの忠ひよこふじと

中勢の親王

同

秘伝成のし此代無あうう起然あし此秘よりけり此連

前左大臣

同恋

人毎ハれしこらお秘伝なる芳れううの信えけうりれ

延花

同難中

ひんて浮盤のよらちてみはるし淡波の海小の鳴波れ

淡人不知

漫拾遺香上

浦をさりんものむのたる天小入日うすうりうり浪鳴山

中勢の親王

同夏

女身秘伝江代浦代時島の戸乃ちく繩くうり包ししかけ

能因法師

同

うりれぬえれや秘伝ハ玉拍もけりうりてとよき非

如願法師

観合道次下

同 耕奉

浦島也程そりり一歌波人あり一火多く登よまうつるる

権僧正 実伊

同 恋一

歌波江也恋凡下の思花つく一馬れ志色やと夢て移る

從二位 家隆

同 雜二

歌波浮声のちめやれ思ひほよめく神所人千疎う

春宮大 天秀赤

新後 耕奉 春上

歌波浮び連より島の鏡せお互并れ物と移もそりり

兼式ア 順徳院

同 夏

歌・も浮るこふくのの八重恋ひまこうかれ春の蝶

前大納 言為氏

同 尺数

歌波江也端むの方のあり乃亦も程波のゆりありぬ

從三位 行家

同 雜二

浦千島歌波の事の左のあも老れ波うま若くそ日あり

入道前 太政大

同 雜中

のりきり歌波の火のなれ物れりりありこりり

前中納 言為兼

同 實

のりきり歌波の事と思へくものか小舟来そら返らぬ

後藏 藤院

王業 春上

歌波浮入江に多てるといれり一霞うまのさる一歳きう

多法 我院

同 夏

歌波浮るるく繩かしし倦て煙と志のうありぬ

多鳥 羽院

同 下

歌波浮影月うのへ志が小明のうとび淡路一海や海

前僧正 実伊

同 冬

歌波浮るるし歌波浮のへ北千島も志ありくるる

兼式 我院

撰千載冬

秋波浮江の千島所ゆり秋のあしすの君小恨しそりく

兵部口 隆親

秋波浮声のうき海の月うきさふ特をくりくらうりつれ

津守 田平

秋波人声のふもやわきて焼こころりうりすび又煙のれ

俊成

秋波浮漕舟の舟のうきくとおくれとも是れいひ所も

不人 不知

秋波浮回し八江よ舟せりくつくよりいふ月をさし川原

權大納言 定房

夜とよふまのこきりく秋波成声の葉を此よりの秋風

前大納言 為氏

あうとを引のゆりささや秋波人わ焼くや乃声は悲ひよ

同

秋波江や芦ゆ浪のこきりくさよらぬきさよふ

法師 子親

秋波江や船のりく漕舟もふくぬ方や秋風をれらん

權中納言 公雄

秋波女れりくのいれを代葉落一よのいも悲やそすり

俊成

秋波しこのいをさるるく日さかも憂おにた月をさるりの

俊二

されあをさみれ梅ふされふり秋波は春の音のこころと

俊二

あし火焼秋波のこやれを煙月ゆよむのそりれへたてり

大江政 国女

秋波江や物並君おれりくあうとも月さよりの芦原

為家

津洲の秋波人声のうの中をりやうふせれりふつのはり

龜山院

秋波江やあまの風を吹風にえりりを書れ春のゆりは

俊成

戸火をく秋波江うりてはまの月煙の外もりすさるるとり

俊二

なんも人かやすうん非をこやのいれひよ初まひくさるこ

權律師 実性

秋波浮いさるすつりとかしけらるを声のひりひさるん

俊人 不知

しと然やなんも秋波はよむむのよゆりえいふりやうり

前中納言 定家

秋波浮八江江のり乃よこしもよ月さうりやまはれ浦波

入道 親王 九条 前内大臣

秋波はよあれりくもれはある生為れきをせ葉してるこ

臣

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

歌波浮入江川波以ぬさきそりの白きよもの袖を

平貞時 朝臣

歌波浮行ハリ一もあひくはくはくは控舟めくも連よかり

三条院 諸波

あきき歌波は片又枯みゆもたふらわあやの八をあき

伏見院 津製

歌波江やあふれ衣乃浦う波れりまきう声乃るうげひま

土城門 津波製

歌波浮芦れまそまきぬくはふへ江川ぬやまう氷うら

多白太 歌大臣

歌波浮浦しりまハ友十島包たけら中うもをむら

宰相 非侍

我意を歌波浮江のあし乃根のまほしくり年をあかり

慈鎮

歌波ひら力を盡してもうひうむさ後き若れ一よらや

定家

夏までとまけを伊ひう歌波成若れうと福の一歌汁成

鳥羽朝 臣女

ぬまぬ原ころなれ歌波浮あやふあけ八重の端は

平齊時

風うねとみゆみでし歌波浮入江のたけの祥もゆ

大納言 備前

我きぬと人よなき歌う網りすう歌波男のてふあや

大納言 旅人

津田はなれもの事も備へ後の世うけてあしとくまけ

権徳正 聖

昨日そそりすとしゆを津田はなれをわらうの夏は暖

大政前 臣

又昔後拾遺反 芦の葉よ濃ゆく浪や歌波成あやれ夏こそ涼うらとれ

好忠 好忠

かえし得浦さひしゆを林旁のほきふと申の釜の釣舟

二条院 三川内

歌波浮入江ハさびふた日熱あるとさひあけ一村

権中 権中

むあ甲そみるよりもむさ歌波江のむ乃氣えま惜まふ

夜進 夜進

歌波浮行乃書を波りぬたふまなうてふ波やゆくらん

惟道 法師

ありあふ歌波は文を海を思あふし女うりれけら舟みゆ

後人 下知

歌波江小夕やまみ満うらみらくらくまあれ村互

山階人 前左

津田は歌波よりそと云すせめりてふまをう連とらう南

因基 因基

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

新治遺歌下

ひたし得のしぬを分て漕船に寄所へすあつた凡よの月

為原 為業

秋波得の楳をく町こよきて月よりよすの沖津

為菴

ひたひつこのけの芦うし書あして浦島をま物からけりぬ

西行 法印

あれたの棚乃し小舟送りかし極波乃あし此雪此下り

兵部 内侍

波此上れ月浦らををひたも浮の一分小舟程をりしりぬ

前大納言 実教

亭子院ひたしり

源冬賢

り幸にたれ

貞教 親王

あつたあ波乃玉しくまの此波乃こしりトてひらもん

源冬賢

ゆきぬえやみ一よの志らひて秋波の芦乃飯杯をやちぬ

直昭 法師

秋波浮楳ひも月を寄るさりりあ志の末に身を乃こして

聖法 人方代

秋波江やおれ折ひらさの葉をうしとともひく浦はる吹

盛徳

ひたを浮玉砂らまをり楳のひりぬる海り積れ白雪

花肉院 盛徳

ひたもしこぬちこれゆ又ひさしに八月ぬちりる淡路鳴山

天曆 天曆

ケーのこも産を志をひたし浮波乃ら寄るし後り

等持院 贈左大臣

秋波浮芦火の煙ろのうしよやくうくとびえの松原

藤原 盛徳

今文にうすますもひたし明このひりゆる春は暖

藤原 盛徳

秋波江れそくと残火を打ちぬる芦やれ里おま雨うゆ

知家 止三位

秋波浮あやりの八重あきりるこ色て芦さふ寄る夏の夜の月

行能 徒三位

ひたし人山橋すじり夏利のありの一ふ小杖を包たて

等持院 贈左大臣

ひたし明このうしれ根葉おほきてけりたのこおれ鳴る

俊成 臣

秋波江やのうの秋あく新氷枯葉みらん浦う波うぬ

推中納言 言重

同

同

同冬

同

同別

同

同

同接

同

同雑上

同

同

同雑中

同

新治遺歌上

同

同

同夏

同

同冬

同

新後拾遺冬

同

へつかり若の若松うらみふ新後のそとやふ人もりぬ
津守 因助

同 藤原

新後浮松てもたてる芳乃ものおやとてと浦内うら
推 三 位 平 良 秀

同 藤原

新後浮へは乃芳のふけうらうらうらとてはれまうとく
成 老

同 恋五

新後浮さ新後のに花はくくまじやみつうら丹もなり
前 中 洲 言 与 明

新後古今香上

新後の乃乃乃やるうらうらとてはれとて春を包んでや
前 大 洲 言 推 世

同

日々に浮さうやう煙立そひて霞のまひく浦うらうら
推 中 洲 言 推 世

同

霞くくひのうらうらとてはれとて春を包んでや
二 品 親 王 守 寛

同

あふ人れ新後神もあうらうらとてはれとて春の梅のとり
式 部 口 者 親 王

同

さうてうらうらとてはれとて春の梅の香りす
法 印 慶 運

同

新後浮声此の乃乃乃とてはれとて春の梅の上凡月
進 十 内

同

芳乃葉もあうらうらとてはれとて春の梅の上凡月
室 部 大 親 石 大

同

なふしとてはれとて春の梅の上凡月
後 鳥 羽 院

同

新後人なりよくうらうらとてはれとて春の梅の上凡月
中 納 言 為 為

同 藤原

新後江やもにうらうらとてはれとて春の梅の上凡月
贈 従 二 位 為 子

同

新後新後の事もうらうらとてはれとて春の梅の上凡月
後 花 山 院 内 大 臣

同 藤原

新後浮へは乃芳を極あてはれとて春の梅の上凡月
前 大 洲 言 推 世

同

長柄 橋 濱 新津 西 生 郡

古今恋五

の心事もまの梅はまをさうらうらとてはれとて春の梅の上凡月
是 則

同 藤原

世中よりゆらゆら梅のなるの梅はまをさうらうらとてはれとて春の梅の上凡月
淡 人 不 知

同 藤原

新後月もまの梅はまをさうらうらとてはれとて春の梅の上凡月
伊 勢

同 藤原

人後す事もまの梅はまをさうらうらとてはれとて春の梅の上凡月
七 条 后 温 子

後撰雜一

あめくさく渡乃中よ富きくや長柄凡指おめやまこ此境

伊勢

拾遺雜一

あふしりふあなうられ指ししき此境の志入へんり

五原

同卷四

りさひなく心長柄乃指ししき入なりし中や縁るん

法人

後撰雜一

朽らせぬ色柄此指の指しり久き事乃みしすもあけ

平兼盛

同雜一

さしし思ひもおめ津田のりりらんゆふ今日すれらん

中宮

同雜四

橋柱さしきしし縁とのふさしきしき先迄とさぬらや

前大臣

同

我らりまの橋ハ朽ふり新設此事とぬれくりりし

赤深

同

あしりりししきしきあられるあしりり橋とみりゆ

伊勢

十載卷四

美乃色れしと袖命し津田此をしりりしと志しりる

五原

同雜上

ゆ末と思へやのりし津田乃なりしゆ橋もあそゆりる

伎指

同

おみ事ししりりしゆゆりり世中いさなりしゆ橋柱しれ

道命

新古今雜中

今日これかきしゆゆ橋しゆゆりりるりりりりりりり

法師

同

年くれと朽しとまきれ指柱るりりりりりりりりりり

忠岑

同

ふの日のさしゆゆの候ふおとくつゆれゆ橋とくとるぬ

忠慶

同

朽おきりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

後大

新撰雜四

津田れさしぬをくもあしぬ短き声のうあしりりりり

花山院

同

おりし事さきさきしゆ橋柱かりりりりりりりりりり

淡人

同

海國ハ長柄乃ゆゆのゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

法性寺

同

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

大皇

同

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

大臣

同

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

兵部

優古今尺歌

同恋五

の来りも柄の橋は朽しして行く世も行く人と波さむ

不短

同賀

人し連を三つふまふ朽ふあかまの橋と又也造りん

前大湖
言隆房

薄給遺雜二

あかひなりうらけ橋と下渡りて継りぬても程やありやん

頼政

玉葉括

う波取まうらけりも橋さるあかひあかひ感あさるそなき

津盛
入道前
大波合

同雜二

橋植うまも叶さくさるへえに志を有りらも包ふまうらけ

小弁

同

あいのすするうらけこし程ありて思ひをなり

順徳院

優千載雜中

こもあふの連もれとふうらけ橋植くらまふ人も思ひ

定家

優後拾遺二

けいせようさあふうらけり程植まふかみくらり河さる

式部
資宣

同雜上

思ふあふらもさうらけ津園のあうらぬてしと志波るへえ

保保草
内侍
淡人
不短

同雜下

ふ日づくの口敷とありぬ津園のまうら橋のありぬり此

権僧正
藤原

くらり持てて愛さるうらけ橋植世後波つさうら思ひふら

龜山院

同千載恋五

あふりふまうら橋のまうらぬて世後波つさうら思ひふら

龜山院

同雜中

今あんといひりまうら橋植又りのよらぬ名のこありつ

為家

新和遺寶

あひりうらけりも津園の敷波くらりをすなを捕つらる

津守
国良
法成寺

新後拾遺卷四

あかまうら橋のけりあうら津さひらうらあかぬあふら

八道
共心
政大臣
隆親

同恋五

あふまうらうらけ橋は波うらも程縁はへえうらけをり

隆親

他心成橋とさうらく信びまふ思ひまうらとあかまうらまうら

亭子院
信

那古海

橋津

住吉郡 越中同各有

新古今卷上

あまの海は恋のすうら極まるは八口とあかまうらとさうら白波

及徳大
寺左大
庄

長舌浦

同

千載卷

あふしてあかま長舌の浦をこ明やうらまもや十島鳴りん

法宗
静賢

新後拾遺下

嵐吹伴舟八山のま鳴てありおれうらうらうらうらうらうらうら

権中納
言国信

新一載別

とさつ波五口の流にもさふす色井の浦も舟おしくめろ 崇徳院

同葉

あつ代さなり井の浦のさくまゐる乃志海の山と成果れと 五原院 醍醐臣

鳴尾

沖浦

同

武庫郡

千載雜上

きふしうさおの方山乃もみしす鳴る几仲ふおゆれ 権大納言 実家

後古今雜下

せつ山よりそよ鳴おれ仲よぞくめあもりくらの峯乃ぬを 源家長

新後撰卷四

逆事さよそ小鳴るの仲つゆ浮てみるめれ寄るよふり 觀意 法所

續千載秋下

扶きりりおれ浦代登人い波りけ夜うこぬ目りふし 大江 貞重

同雜一

年もぬ何よりかこ鳴るぬる老も鳴るのまろ事よら 前大納言 為世

新拾遺秋上

あしりも松小鳴るれ松風い分てあふ志正胸よそあけり 西行

新後拾遺雜

とさつ波よすりひくふと浦上てと浦小鳴るの松風う鳴 權中納言 為重

長例

濱

同

河辺郡 淀川尻

同卷五

人しをとおる涙も涙國のさすこみして神さるりの 長久

長濱

浦

伊勢

京大寺所伝

あつ代も坂のあし長濱れまおれりすまもあす 兼浦

後撰卷五

波たぬよ波の念と長濱の浦にやうりと志所く 明臣

金葉賀

長濱れまおのねも何なりとせむをすあかあつ代り 長冷泉 院修

候河

同

後撰雜別

あつりの方よあまてふ候川まろし神あそり 源人 不知

新勅撰卷四

涙川みろしと神にさあしひて人乃うまき 前美白

流江

伊珠

後撰集卷二

新千載

同冬

いづれ海にのく濠の流江のなりてともみん人乃心と
浪のハハみみれは萩おろしき流しきり澄りしとみ雲りぬ
りせれ海乃を乃、濠のハ揚り、流江をく鳴ららりりぬ

鳴海

海由野海

尾張

りらるる海乃のふとしらりて人をけりひきく

いづれ海にのく濠の流江のなりてともみん人乃心と

後撰集卷三

詞花抄

いづれ海にのく濠の流江のなりてともみん人乃心と
浪のハハみみれは萩おろしき流しきり澄りしとみ雲りぬ
りせれ海乃を乃、濠のハ揚り、流江をく鳴ららりりぬ

りらるる海乃のふとしらりて人をけりひきく

千載

いづれ海にのく濠の流江のなりてともみん人乃心と
浪のハハみみれは萩おろしき流しきり澄りしとみ雲りぬ
りせれ海乃を乃、濠のハ揚り、流江をく鳴ららりりぬ

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

いづれ海にのく濠の流江のなりてともみん人乃心と
浪のハハみみれは萩おろしき流しきり澄りしとみ雲りぬ
りせれ海乃を乃、濠のハ揚り、流江をく鳴ららりりぬ
鳴海浮のさそふせりてとを偲ても神うぬれまぬ
いづれ海にのく濠の流江のなりてともみん人乃心と
浪のハハみみれは萩おろしき流しきり澄りしとみ雲りぬ
りせれ海乃を乃、濠のハ揚り、流江をく鳴ららりりぬ
いづれ海にのく濠の流江のなりてともみん人乃心と
浪のハハみみれは萩おろしき流しきり澄りしとみ雲りぬ
りせれ海乃を乃、濠のハ揚り、流江をく鳴ららりりぬ
いづれ海にのく濠の流江のなりてともみん人乃心と
浪のハハみみれは萩おろしき流しきり澄りしとみ雲りぬ
りせれ海乃を乃、濠のハ揚り、流江をく鳴ららりりぬ
いづれ海にのく濠の流江のなりてともみん人乃心と
浪のハハみみれは萩おろしき流しきり澄りしとみ雲りぬ
りせれ海乃を乃、濠のハ揚り、流江をく鳴ららりりぬ

正三位 季能
前中納言 師仲
増基 法師
橘当世 朝臣
通光
俊成
崇徳院
安赤門 門佐
光俊
源人 不知
鳥家
直昭 法師

續後撰卷六

王業

我まゝつゞく海乃瀬ひ浮りてかゝるまをあらるる

國守

慶十載 卷四

りりみ浮瀬せけ波にうつらり浦に流らりりる人

大江志成朝臣

川推冬

立ぬまのくを神とゆすすむそになるる沖は白波

推朝

新十載冬

又これのゆゆりりく海浮方とゆと先すまの十島入

正三位

同

おるく海を望みたまれよりく海に於人乃君の卜果

大江廣房

同族

鳴海浮瀬ひいなりふりり女ふ波のそみりてたの十島

推中納言為助

新拾遺冬

りり人そそひうくらり海浮瀬ひの方たをふはる

前大納言為氏

新後拾遺 雜秋

りりそゆゆりり千島の鳴みりりりりりりりりりり

法皇

同卷四

りりそゆゆりりりりりりりりりりりりりりりりり

嚴阿上人

新撰古今冬

りりそゆゆりりりりりりりりりりりりりりりりり

宗師

同卷一

打よ下へ沖つ白波音あして雪りりりりりりりりりり

成胤

同卷中

おりのひりりりりりりりりりりりりりりりりりり

前七帖言正信

（おのけの海乃瀬ひいなりふりりりりりりりりりり

法橋

名高浦

遠江

八雲山抄 宗祇因分 藤増まふ 當山

續拾遺 卷二

我志へるるの浦にひさりのひそよれをりりりりりり

院少将内侍

新十載 卷二

笠乃るるの浦にひさもひひそりりりりりりりりりり

淡人不知

長濱

同

大原磯升を江にゆるりりりりりりりりりりりりり

小りと養りりりりりりりりりりりりりりりりりり

新拾遺 雜別

れりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

聖武天皇

鳴澤

駿河

慶古今冬

新拾遺

同

煙の思ひのトやこがらんゆりの時津言じとやけり
こまたれくゆりの時津水ありて音金煙より互まららん
兜雲思を富士にみれさきよ後れ教うもつしを面らめ

七社

遊江

新古今神祇

我れ七社にゆふなまうけても六のるううをそれ

慶千載神祇

馬の思ひしうみり月八葉りまゆる七社津

同

清ぬり七社にめり思しそ我れ十年の力みありたれ

慶後拾遺神祇

おこみねの思ひとてりてるしはくま守社七社夕

同

えいも七社守社とてりてりてりてりてりてりてり

新千載神祇

おろよ七社乃りすくはれ社も社も社も社も社も社も

同賀

七十は今日乃たあやむるし社にすそありてあやむる

新慶古今神祇

をれつりし人ぬむまをむし社をこたし社七の社

同

さしぬの思ひいとむの演うせ社とれま守七八社

同

おみまひりしと成てもあやとこもあそ守れ七社社

同

八十す七社小けり包まてりるもあやけりけりけり

長巻

山 山井 尾上

遊江

後撰雜二

めつしや言まうの山に折しきりりり果にけり

同雜三

世中といひひりてりてりてりてりてりてりてり

拾遺秋

ふとぞい言まうの山にれとくはく社をえ海さりり

同神樂

あつたのまうの山にれりひりりも思まをれ折る時り

同

さしぬりまうの山にまうるそためりりりりりりり

千載春上

さしぬりまうの山にまうるそためりりりりりりり

後鳥羽院

藤田

権中納言 公権

藤田

天台座主 慈勝

前中納言 為世

祝部 成久

法印 幸榮

前大僧正 惠順

後進 隆盛

成茂

俊惠 法印

法賢

法全

後人 不知

原順

能宣

同

後人 不知

同

細波也なるの山の波はくさきせよや人より是の威と

孫原

同冬

ゆきさし、長られ山とこ波さるる上と越れ志り此浦波

五原

新古今集三

たのめさく人も長られ山のふらと交りれい松風の冬

鴨長明

同雜二

こせしやま志りのい、崎かと成せられ山れふり氣又と

慈因

徳古今集

夏れぬの月いりの山の香の松あまくれぬもあ代れし志

前中納言資実

續拾遺集

ゆき波やまうれ磯水垣ふらうましく砂いさ志りれうい風

平重時朝臣

玉葉春上

細波の舟のられ山に成志りの浦風ゆりすもりうるん

權中納言所俊

同秋下

さし波や浦風ゆりし松りよのぶられ山お月うゆさく

入道前大臣政大

同賀

志り代にさしうの山の志根松と度八十度迄のゆくまで

左大臣大夫補

續十載雜上

ゆき夕小のふら心うりうりのななりられ山乃峯れ志り志

前權僧正雲非

凡雅春上

越やうてあのをとをみ連春れ日のまうの山の花れ下り

大納言公直

新後拾遺雜上

八十五まうれ山よまうりうをて人しそ志孫世後行るとそ

法印俊能

百目れ入堂のたあうい志の山せ動さふれなり

同尺数

てし見ゆりあれ

あつひす人返しを消せまう成山の下の毒ゆりるこも

入道二不親王

連庫山

送江

玉葉振

さし波の月まうり山おま井てぬそあうてふ波連我せこ

上人不知

長村山

同

續後拾遺賀

あつひ代長村山の柳末を八十人へのうきししうません

原兼盛

長澤池

同

凡雅賀

あつひの長ふたうい志の池れ島浦さきあうひうりく

前大納言俊光

名取河

河郡 湯 大上郡

あまみみのくわのふみのうみのかたへを

古今源

犬上たとの山りか名を川つとこく人よ我ありしをれ

七久里湯

信濃

後治遺恋一

はふもす三は涙をりのまかあや七くも乃が湯成り

相持

名取

河郡 湯

陸奥

古今源三

みらのくふまごまやふを川まふをてま若しうとらと

忠孝

同

名を川せの埋ふりくれいふらんらうのひと初らん

淡人 不知

拾遺物名

うらまををれ都小下ぬをトらりとくれ事い三社の

重之

同

ふあまのむらこくれふれまゆけき泣くもら

赤盛

金葉恋上

あさうや逢ぬもぬぬを川まふをれ志がわらすし

新宮

同 恋二

名を川やかをれはうらしく成るやうらうらにせ

原重二

同

ましくもあしぬたのれを川朽ふ果祿せく埋ま

致進

後治遺恋下

まのりよ今くこ埋るを川せの埋まくらてま

典政太 功大臣

同 恋四

まら河むれ目ぬあふまてぬを川せの埋ま

定家

同 雜中

まら祿く物ふおら川うらまてくふゆの埋ま

祝詞 成賢

同

年ふれとらりもやぬを川ま力そのはませく埋ま

徳三 位 於氏

後古今源三

うらま世よ沈まてく名を川又埋まのりを屋まふ

五原 臣 長朝臣

同

あまを神の上ゆまら川今を我力ま勢く方ま

定家

後古今源三

みらのらふきてあ河のむりれまのつ川流て浮まをらん

康時 侍

新後恋三

まら川いふせんままらく思人を人へ恨まあれ

前中納 言定家

ふ取川せよまて埋まと淵あをた川むみりぬら

從三位 為姓

同恋一

後千載神祇

後千載一

同

同

同恋二

後後拾遺卷一

同二

同雜中

新千載秋上

同恋三

埋木のつゝも朽むるを川に流す人ふ涙もも包みさ
津守国 助女
 ぬくもを神にけりよれるを川に流す人ふ涙もも包みさ
中臣 秋春
 つたへて朽ふもてしるを川に流す人ふ涙もも包みさ
少侍 内侍
 流てを人乃ためうとさふり川に流す人ふ涙もも包みさ
式部 久非親王
 うしとてもあふふさうつゝもを川に流す人ふ涙もも包みさ
平政長
 つたへてあふふさうつゝもを川に流す人ふ涙もも包みさ
大江 廣茂
 百りり川に流す人ふ涙もも包みさ
杖三 杖三 杖三
 流す人ふ涙もも包みさ
僧止 行意
 名を川に流す人ふ涙もも包みさ
存原 貞忠
 秋のよの月におはふ川に流す人ふ涙もも包みさ
前奈 能清
 流す人ふ涙もも包みさ
花園院

同

新拾遺夏

新後拾遺春下

同恋一

新後拾遺春下

うしとてもあふふさうつゝもを川に流す人ふ涙もも包みさ
權中納言 為定
 名を川に流す人ふ涙もも包みさ
保守法親王
 流す人ふ涙もも包みさ
前中納言 有庄

奈古書園

陸奥

後撰卷二

後若昔春上

並昔春下

千載春下

うしとてもあふふさうつゝもを川に流す人ふ涙もも包みさ
十九條 息水
 流す人ふ涙もも包みさ
原師 朝臣
 流す人ふ涙もも包みさ
原俊 朝臣
 流す人ふ涙もも包みさ
源義家 朝臣

新勅撰卷一

同

みるゆり整乃ゆきの澄り小ねしその笑も我す人なくに小野小町

後撰撰卷一

東風の思ふれせに休らひておこされ園を越せわけらふ西行

新撰撰卷三

子歌おころの笑れはらむもあはれなき小えうきうのぬし不知

玉葉卷二

夜らおなこそり園をすもよ志き人たねとりみしこぬ後庭

同三

なこそとこ澄るましつし採花ひふすふる笑とあそみ連和泉式部

同五

さてもゆし越りしゆと今又に又いおこそその園守そくま安房院四条

後撰撰卷一

あつちの方よはこころた園のぬえと教よすあともやう前大僧正慈鎮

同

約・も志よあゆりのを忘れおころれ笑しききく後撰撰前右近

新撰撰卷二

あし依れ個坂うりも若よすかこころをのびさ笑こゑ南

新撰撰卷二

きくちりしんせぬこころの園のぬえと教よすあともやう前大僧正慈鎮

新撰撰卷二

つふ又びやあゆりのひちりもすきをかうの笑とさう前大僧正隆房

つふ又びやあゆりのひちりもすきをかうの笑とさう前大僧正隆房

奈具 江 海 口 浦 沖 越 中

射水郡 撰列同名有

玉葉卷下

逆舟もかこはよあさる若鴨のうき林を鳴と人しむすや機政五大臣

後撰撰卷一

澄ぬそく吹らし一鶴の鳴ぬあの入江小つらり井小なる撰中納言長方

後古今 雅下

月ぞく今よう取さぬあのはしり夕口をゆくあす乃釣舟光俊

同雅中

倭風さびく吹りしあのはしりあひまひりしあはれ家持

後撰撰卷一

あめの海やと波は舟のゆきとに初人の思りまぬ撰中納言俊忠

新撰撰卷下

あつちの方よはこころた園のぬえと教よすあともやう前大僧正隆房

後撰撰卷一

あめの浦にとりりせしあはれかたけはたしとあはれ後二

玉葉卷二

あつちの方よはこころた園のぬえと教よすあともやう撰中納言俊忠

後後拾遺冬

新千載秋下

新十載冬二

新續一古今冬

江ノ江ノ若凡ノうしと漫思ふも故もさぶく吹り前大納言甚良
次ノ産ノありハ内ホも晴シナコノやウツノまきのれ月後成
残カ摘テこの登人奉ヤもん千ノうしりぬ神ノりやヤ法橋
故所もくはこの漫ノ浦ノ故小ハ江ノ千もむけくふん也伏見院

長田村

丹波

元暦元年大嘗會猶春新ノ丹波國也田村を撰ル

新古今賀

神代ノりきふれるとやつりり小長田ノ縮バ志ナハ初叙

權中納言赤光

長尾河

備中

風推賀

汲ハのよりひのりうれ長尾ノりまの川ノ事ハ色ノ水

正三位隆勝

長尾村

同

汲ニ系院ハ時大嘗會備中國言

りりりあそふれ末と思ふへ長尾ノ村此りりきたりり小

原原

長田山

同

汲ニ系院の所町也和又年大嘗會其方也外也

備中國長田山ノ備ニ琴引のそひりりり水と後水

ゆ世に空物也しとそらりむりり長田此山の香ノ松也

善法寺

名草

備前山

紀伊

名草郡

汲ニ系院ハ時大嘗會備中國言

後人不知

紀伊のち草ハ後ニ毛られやとありりひととさしけり

同

登のりあみらめと後ノま入所ノみ草ハ後ニ毛りひん

後成

おろし今も名草ハ後千島もつとふつき使ふふり

式子丹親王

浦にこみ込もる草ハ後ちりり夕極みちてをよりり

内大臣

新十載冬

浦にこみ込もる草ハ後ちりり夕極みちてをよりり

内大臣

狐神祇

逢しとて今もなぐりの流ぬおぼはぬとて神とせし也
右主門
尊教定

那智

山 滝 高根

紀伊

牟婁郡

新後聖雜中

まらの山をよれはく流たきよとくくむれちりも流り
式乾門
院四運

三年へしぬらのれ山乃りひあふまうちみん流れ白ま
前大僧
正道禱

新十載雜中

那智まて香の櫃うしつとま付まる

はりひまやまれ流りあけさと作并成柄にれしと也
前大僧
正行寺

風指雜二

ま平小流されあふ流りいりろくれからの高根の流を流て
西行
法師

世と乃りけくぬふらにまうてゆもれよまひす

日乃山流たゆる事とまひて流乃りし小書付ゆれ

三年へし流乃りし流りひれらふすちりり神ゆりし
法眼
慶教

鳴門

紀伊

牟婁郡山城町名有

新古今神祇

心事ぬみの戸れまて年々流れ志甲しとて何を何伝ふん

はまののまのり事と流て東の方へまうりし

ふまう人流野のれえ人りて流てゆもれまよ

みしきうくと

鳴門

阿波

修業卷二

鳴とよわうと出されし舟より日流るよ流をせむらせ
玄原
流籍

王業卷下

思ふんと流りし人れ流りし事と流りし流りし
権僧正
末縁

千載卷五

舞りしと流りし事と流りし浦十島流りし事と流りし
玄原
家朝臣

王業卷

そ流りしと流りし事と流りし事と流りし事と流りし
重之

新十載卷五

ゆれしと流りし事と流りし事と流りし事と流りし
平時元

新治遺族

新後治遺族

ささるく浦にのりきすうまよ倦しき老をみとれん
忠見
びしてくひひさおのる字をいふうしむらくの仲つ松木
從三位
成清
侯汝浮勢とのりひ風吹くひてやうく鳴門うしむら舟人
從八
平知

奈毛木杜

大隅

古今群語云

金葉卷下

ねまき事とありのこさるん松う果えおけきの社と成らぬ
さぬさ

詞花卷下

いふせんおけのさ社と成れはあのをの月の邊るま世後
橘後
宗女

新漢古今卷五

むひうて松をさす一ふやのうとおけきの社と成ぬ
清原
元輔

くれまら人のひは秋ゆうとそをさるまきのりとのま
西原
秀茂

七瀬淀

未勘

金葉卷上

あせくわりのみしぬ江ふ神ひらて七とれ後にはふいと
神辨伯
野仲

類字名所和歌集第三卷



110 X
421
7